

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2020年6月30日
【事業年度】	第33期（自 2019年3月1日 至 2020年2月29日）
【会社名】	株式会社幸和製作所
【英訳名】	K O W A C O . , L T D .
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 玉田 秀明
【本店の所在の場所】	大阪府堺市堺区海山町三丁159番地1
【電話番号】	(072) 238 - 0605
【事務連絡者氏名】	管理本部長 山川 晋
【最寄りの連絡場所】	大阪府堺市堺区海山町三丁159番地1
【電話番号】	(072) 238 - 0605
【事務連絡者氏名】	管理本部長 山川 晋
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第29期	第30期	第31期	第32期	第33期
決算年月	2016年2月	2017年2月	2018年2月	2019年2月	2020年2月
売上高 (千円)	4,884,862	4,567,943	5,093,256	4,526,297	5,992,157
経常利益又は経常損失 () (千円)	217,676	303,697	453,095	262,200	110,653
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失 (千円) ()	216,119	210,475	356,397	358,158	367,327
包括利益 (千円)	171,109	150,540	398,704	426,370	408,266
純資産額 (千円)	555,263	705,804	1,656,313	1,271,760	843,773
総資産額 (千円)	2,541,974	3,087,457	3,676,287	4,717,452	6,310,390
1株当たり純資産額 (円)	163.00	207.19	416.93	293.44	190.42
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失 () (円)	63.44	61.79	100.60	87.52	86.48
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	89.24	-	-
自己資本比率 (%)	21.8	22.9	45.1	26.0	12.9
自己資本利益率 (%)	46.0	33.4	30.2	-	-
株価収益率 (倍)	-	-	42.64	-	-
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	274,871	424,394	520,011	215,316	117,165
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	58,083	68,349	53,233	368,296	256,826
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	30,727	239,530	45,480	1,470,057	383,497
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	551,887	1,121,764	1,556,899	2,409,311	2,639,163
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	472 (30)	438 (30)	385 (22)	374 (26)	378 (76)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第29期および第30期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であり、期中平均株価が把握できなかったため記載しておりません。

3. 第32期および第33期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

4. 第32期および第33期の自己資本利益率については、親会社株主に帰属する当期純損失であるため記載しておりません。

5. 第29期および第30期の株価収益率については、当社株式は非上場であったため、記載しておりません。

6. 第32期および第33期の株価収益率については、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

7. 当社は、2017年7月14日開催の取締役会決議により、2017年8月4日付で普通株式1株につき10株の割合で株式分割を行っておりますが、第29期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額および1株当たり当期純利益ならびに潜在株式調整後1株当たり当期純利益を算定しております。

8. 当社は、2018年1月18日開催の取締役会決議により、2018年3月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っておりますが、第29期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額および1株当たり当期純利益ならびに潜在株式調整後1株当たり当期純利益を算定しております。

9. 当社株式は、2017年11月28日に東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)に上場しております。そのため、第31期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益の計算においては、新規上場日から第31期連結会計年度末までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

10. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を当連結会計年度の期首から適用しており、前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第29期	第30期	第31期	第32期	第33期
決算年月	2016年 2月	2017年 2月	2018年 2月	2019年 2月	2020年 2月
売上高 (千円)	3,599,195	3,595,827	4,294,538	3,973,450	4,293,159
経常利益又は経常損失 () (千円)	61,361	274,890	474,731	122,157	201,254
当期純利益又は当期純損失 () (千円)	99,528	238,210	377,387	218,784	339,516
資本金 (千円)	178,670	178,670	484,213	535,252	561,660
発行済株式総数 (株)	113,551	113,551	1,324,210	4,186,260	4,282,290
純資産額 (千円)	225,098	475,241	1,404,310	1,178,914	819,908
総資産額 (千円)	1,835,886	2,320,865	3,177,414	4,321,622	4,844,545
1株当たり純資産額 (円)	66.08	139.51	353.50	281.62	191.47
1株当たり配当額 (円)	-	522.07	82.14	-	17.00
(うち1株当たり中間配当額) (円)	(-)	(-)	(-)	(-)	(17.00)
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失 () (円)	29.22	69.93	106.52	53.46	79.93
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	94.49	-	-
自己資本比率 (%)	12.3	20.5	44.2	27.3	16.9
自己資本利益率 (%)	52.6	68.0	40.2	-	-
株価収益率 (倍)	-	-	40.27	-	-
配当性向 (%)	-	24.9	25.7	-	-
従業員数 (人)	96	103	112	120	113
(外、平均臨時雇用者数) (人)	(30)	(30)	(22)	(16)	(14)
株主総利回り (%)	-	-	-	28.4	20.9
(比較指標: JASDAQ INDEX スタンダード) (%)	(-)	(-)	(-)	(83.6)	(80.4)
最高株価 (円)	-	-	18,610	4,205	1,990
			4,635		
最低株価 (円)	-	-	7,720	599	798
			4,200		

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第29期および第30期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であり、期中平均株価が把握できなかったため記載しておりません。

3. 第32期および第33期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

4. 第32期および第33期の自己資本利益率は、当期純損失が計上されているため記載しておりません。

5. 第29期および第30期の株価収益率については、当社株式は非上場であったため、記載しておりません。

6. 第32期および第33期の株価収益率については、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

7. 2017年7月14日開催の取締役会決議により、2017年8月4日付で普通株式1株につき10株の割合で株式分割を行っておりますが、第29期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額および1株当たり当期純利益を算定しております。

8. 2018年1月18日開催の取締役会決議により、2018年3月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っておりますが、第29期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額および1株当たり当期純利益ならびに潜在株式調整後1株当たり当期純利益を算定しております。

9. 当社株式は、2017年11月28日に東京証券取引所 J A S D A Q (スタンダード) に上場しております。そのため、第31期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益の計算においては、新規上場日から第31期事業年度末までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。
10. 第29期から第31期の株主総利回りおよび比較指標については、当社株式は2017年11月28日に東京証券取引所 J A S D A Q (スタンダード) に上場したため記載しておりません。
なお、第32期以降の株主総利回りおよび比較指標については、第31期の末日における株価または株価指数を基準として算定しております。
11. 最高・最低株価は、東京証券取引所 J A S D A Q (スタンダード) におけるものであります。
なお、2017年11月28日付をもって同取引所に株式を上場いたしましたので、それ以前の株価については該当事項はありません。
12. 当社は、2018年1月8日開催の取締役会において、2018年3月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行う旨を決議しており、印は当該株式分割による権利落後の最高・最低株価を示しております。

2【沿革】

株式会社幸和製作所（以下、「当社」といいます。）の創業者である取締役会長玉田栄一は、当社設立以前より個人事業主として、大阪府堺市にて乳母車の製造販売を行っておりました。その後、乳母車の製造で培った技術を基に、当時はまだ珍しかった高齢者向け製品の開発を志し、歩行を補助するシルバーカーを開発するなど、福祉用具製品の多様化を図ってまいりました。そして業容の拡大を機に、1987年10月に当社を設立いたしました。

当社設立以降の主な沿革は以下のとおりであります。

年月	概要
1987年10月	大阪府堺市幸通（現堺市堺区幸通）に児童乗物（乳母車）の製造販売を事業目的とした、株式会社幸和製作所（資本金6百万円）を設立。
1997年6月	本社を大阪府堺市少林寺町（現堺市堺区少林寺町）に移転。
1997年7月	シルバーカーの輸入、製造および販売を目的として、大阪府堺市幸通（現堺市堺区幸通）に株式会社コーワジャパン（2000年3月に株式会社ホープウェイへ商号変更）を関連会社として設立。
1997年11月	埼玉県上尾市に関東営業所を新設。
1998年5月	大阪府堺市海山町（現堺市堺区海山町）に工場を新設。
2000年3月	関東営業所を埼玉県北本市に移転。
2001年8月	本社を大阪府堺市海山町（現堺市堺区海山町）に移転。
2001年11月	大阪府堺市出島浜通（現堺市堺区出島浜通）に出島浜物流センターを新設。
2002年5月	福祉用具の中国での生産を目的として、中国香港特别行政区九龍尖沙咀金馬倫道に幸和（香港）有限公司（現連結子会社）を設立。
2003年3月	幸和（香港）有限公司が中国広東省東莞市莞龍路に東莞工場を新設（中国国内での生産を開始）。
2003年12月	関東営業所をさいたま市大宮区浅間町に移転。
2004年1月	東莞工場がISO9001の認証取得を受ける。
2005年10月	当社が株式会社ホープウェイを吸収合併。
2006年3月	大阪府岸和田市臨海町に物流センターを移転。海山町工場を閉鎖。
2007年10月	福祉用具を総合的に展開する目的で自社ブランド「T a c a o F（テイコブ）」を創設。
2009年9月	福岡県太宰府市に九州出張所を新設。
2010年3月	福岡県大野城市に九州出張所を移転し、九州営業所とする。
2010年12月	当社がISO9001の認証取得を受ける。
2011年7月	幸和（香港）有限公司が中国広東省東莞市東城区に東莞幸和家庭日用品有限公司（現連結子会社）を設立し、東莞工場を移管。
2011年9月	幸和（香港）有限公司が中国国内での福祉用具の販売を目的として、中国広東省広州市越秀区に広州特高歩貿易有限公司を設立。
2011年11月	関東営業所をさいたま市大宮区三橋に移転。
2011年11月	幸和（香港）有限公司を中国香港特别行政区九龍尖沙咀麼地道に移転。
2011年12月	東莞工場を中国広東省東莞市東城区に移転。
2012年6月	大阪府岸和田市臨海町に物流拠点KDC大阪を新設。
2014年5月	愛知県稲沢市に東海営業所を新設。
2016年1月	広州特高歩貿易有限公司を清算。
2016年6月	KDC大阪を閉鎖し、大阪府岸和田市地蔵浜町に幸和メンテナンスセンターを新設。
2016年9月	幸和（香港）有限公司を中国香港特别行政区中環金鐘道に移転。
2016年11月	東海営業所を閉鎖。
2017年5月	東京都港区に介護ロボット開発の拠点として「ロボティクスR&Dセンター」を新設。
2017年11月	東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）に株式を上場。
2018年5月	幸和メンテナンスセンターを大阪府泉大津市に移転。
2018年11月	福祉用具・介護用品のインターネット販売を目的として、福岡県北九州市八幡西区皇后崎町に株式会社ネクストケア・イノベーション（現連結子会社）を設立。
2019年3月	有限会社パムック（2019年9月に株式会社幸和ライフゼーションへ商号変更、現連結子会社）を連結子会社化。
2019年3月	株式会社あつるを連結子会社化。
2019年3月	株式会社シクロケア（現連結子会社）を連結子会社化。
2019年10月	株式会社幸和ライフゼーションが株式会社あつるを吸収合併。

3【事業の内容】

当社グループは、2020年2月29日現在、当社、連結子会社の幸和（香港）有限公司、東莞幸和家庭日用品有限公司、株式会社ネクストケア・イノベーション、株式会社幸和ライフゼーション、株式会社シクロケアの計6社で構成されており、介護用品・福祉用具の製造・販売、介護サービスを主たる事業として取り組んでおります。

当社グループの事業内容および当社と関係会社の当該事業に係る位置付けは次のとおりであります。

なお、次の2部門は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

また、当連結会計年度より報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

- (1) 介護用品・福祉用具製造販売事業・・・主要な製品は、シルバーカー、歩行車および杖など歩行補助を目的とした福祉用具であります。
シルバーカーおよび歩行車は、当社グループの生産拠点である東莞幸和家庭日用品有限公司にて主に製造しており、杖やその他の福祉用具については国内外の委託工場および仕入先から当社および子会社株式会社シクロケアが仕入を行っております。国内は当社および子会社株式会社シクロケア、海外は子会社東莞幸和家庭日用品有限公司が販売しております。
- (2) 介護サービス事業・・・・・・・・・・・・子会社株式会社幸和ライフゼーションが行っているデイサービス事業等を含んでおります。
- (3) その他・・・・・・・・・・・・子会社株式会社ネクストケア・イノベーションが行っているEC事業等を含んでおります。

(1) 主要な製品

主要な製品は、シルバーカー、歩行車および杖など歩行補助を目的とした福祉用具であり、これらの製品は、自立歩行の可否および歩行支援の程度によって用途が分類されております。

シルバーカーは、一般財団法人製品安全協会のSG基準（製品安全規格）により、自立歩行が可能な高齢者が外出時や物品の運搬および休息に用いる四輪以上の歩行補助車と定義されており、杖に比べ歩行補助のレベルが高いものとなります。当社は、法人としての当社設立前の1970年からシルバーカーの製造・販売を開始しており、当社創業時からの主力商品として、外出用や買い物用など用途に合わせた機能や、福祉用具にファッション性を求める高齢者向けに多様な製品を展開しております。

歩行車は、シルバーカーと異なり介護保険が適用される歩行補助具であり、自立歩行が困難で歩行時に体重の支えが必要な要支援および要介護認定者の歩行を補助するものであります。

当社は2007年より歩行車市場へ参入し、2010年に軽量・コンパクト仕様により、持ち運びが容易な歩行車「テイコブリトル」を発売しました。同製品は、コンパクトなサイズや軽量である点がアクティブな高齢者に受け入れられ、様々な機能を搭載した製品をシリーズ化して展開しており、歩行車のレンタル市場の伸長と連動する形でシルバーカーに代わる主力商品となっております。

また、2015年10月に電動アシスト機能付歩行車「リトルキーパス」の発売を開始し、2016年4月には、軽量コンパクトで人気の機種「テイコブリトルスリム」に電動アシスト機能を搭載した「リトルキーパスS」の発売を開始いたしました。この「リトルキーパス」は、厚生労働省社会保障審議会（介護給付費分科会）におきまして、日本で初めて介護ロボットとして介護保険のレンタル対象製品の認定を受けております。

杖は最も身近な歩行補助具として、自立歩行が可能な高齢者の歩行時の荷重を低減し歩行を安定させるものであり、豊富な色柄でファッションの一部として使用する一本杖や、着地面積が広く、より安定感のある多脚杖を展開しております。

その他に入浴関連、排泄関連および服薬支援関連などの福祉用具を含め、2007年に創設した自社ブランド「TacaoF（テイコブ）」として福祉用具を総合的に展開して販売しております。

さらに、2017年11月には、アクティブシニア層のメンズ市場を対象とした製品ブランド「GENTIL MARRONE（ジェンティルマローネ）」によるロレータ型歩行車「Michele（ミケーレ）」の発売を開始いたしました。

なお、当社グループの主要な製品であるシルバーカーおよび歩行車は、当社グループの生産拠点である東莞幸和家庭日用品有限公司にて主に製造しており、杖やその他の福祉用具については国内外の委託工場および仕入先から当社が仕入を行っております。

(2) 当社グループの販路

当社グループの主な販路は3ルートに大別され、当社が販売するチェーンストアルート、介護ルートおよび東莞幸和家庭日用品有限公司が販売するOEM受注があります。

チェーンストアルートは、当社が主に代理店（問屋）を通して、ホームセンター、ディスカウントストア、スーパーマーケット等にシルバーカーおよび杖に代表される介護保険の適用外の製品を販売しております。

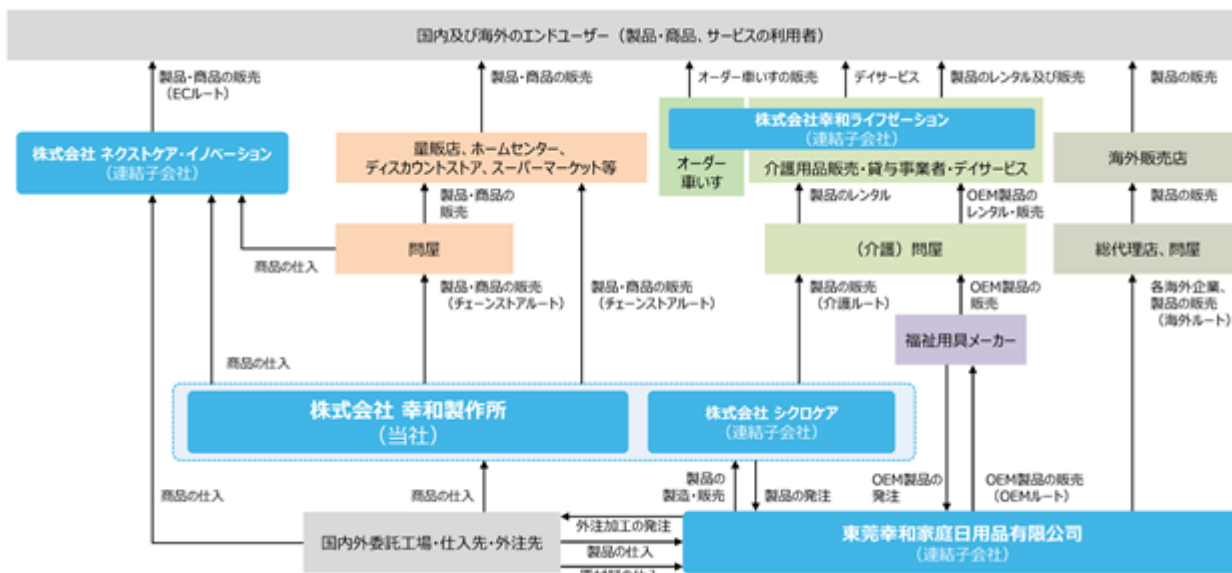
介護ルートは、当社が主に代理店（問屋または介護用品貸与事業者）に販売し、介護サービス事業者が利用者に販売または貸出しを行う形となっており、歩行車に代表される介護保険が適用される製品を中心に販売しております。

OEM受注は、販売先からシャワーチェア等福祉用具のOEM製品を東莞幸和家庭日用品有限公司が受注し、製造、販売までを行っております。

なお、その他の販売ルートとして、販売先が行っている通販用の製品を販売する通販ルートや各国の代理店を通じて販売する海外ルートがあり、販路の拡大に努めております。

以上に述べました当社グループの事業系統図を示すと次のとおりであります。

[事業系統図]



(注)一部のOEM受注については、当社を介さず東莞幸和家庭日用品有限公司より直接ホームセンターや量販店等のチェーンストアに販売する商流が存在します。

4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合(%)	関係内容
(連結子会社) 幸和(香港)有限公司 (注)2.4	中国香港特別行政区	0 千香港ドル	介護用品・福祉 用具製造販売事 業	100.0	当社の製品を販売してお り、当社が製品の一部を購 入しております。 役員の兼務 1名
東莞幸和家庭日用品有限 公司 (注)2.3	中国広東省東莞市 東城区	4,700 千米ドル	介護用品・福祉 用具製造販売事 業	100.0	当社製品の製造および販売 をしております。
株式会社ネクストケア・ イノベーション (注)2	福岡県北九州市 八幡西区	49百万円	その他	51.0	当社製品を販売しておりま す。 役員の兼務 1名
株式会社幸和ライフゼー ション (注)2	東京都江戸川区	20百万円	介護サービス事 業	100.0	役員の兼務 3名
株式会社シクロケア (注)2	大阪府羽曳野市	10百万円	介護用品・福祉 用具製造販売事 業	100.0	役員の兼務 3名

(注)1. 「主要な事業の内容」欄には、セグメントの名称を記載しております。

2. 有価証券届出書または有価証券報告書を提出している会社はありません。

3. 特定子会社に該当しております。

4. 幸和(香港)有限公司は2017年9月末をもって主な事業活動を休止し、清算に向けて整理を行っております。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2020年2月29日現在

セグメントの名称	従業員数(人)	
介護用品・福祉用具製造販売事業	338	(21)
介護サービス事業	37	(41)
その他	3	(14)
合計	378	(76)

(注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含む。)は、年間の平均人員を()内に外数で記載しております。

2. 前連結会計年度に比し、連結会社の従業員数が4名および臨時従業員数が50名それぞれ増加しております。

(2) 提出会社の状況

2020年2月29日現在

セグメント名称	従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
介護用品・福祉用具製造販売事業	113 (14)	39歳0ヶ月	6年4ヶ月	4,698

(注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含む。)は、年間の平均人員を()内に外数で記載しております。

2. 平均年間給与は、賞与および基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

当社グループの労働組合は結成されておきませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営方針および経営戦略等

当社グループは、介護用品および福祉用具の開発・製造・販売を通じて高齢者がいつまでも健やかに、元気に、生きがいを持って、クオリティ・オブ・ライフ（QOL）の向上に寄与できる社会の構築により、社会貢献の実現を目指しております。

当社グループは、「1. 取扱い製品領域の拡大」、「2. シニア関連事業の拡大」、「3. 介護ロボット事業の確立」、「4. 海外事業の開拓」を主な経営方針として事業活動を進めております。

「1. 取扱い製品領域の拡大」では、株式会社シクロケアを連結子会社とすることにより、同社が取り扱う介護保険における住宅改修用品および介護保険貸与（レンタル）の対象となる手すりやスロープ、また、介護保険販売の対象種目となる特定福祉用具の入浴補助具（すのこ）等、これまで当社の市場シェアが低いもしくは参入できていなかった製品領域への参入を推進しております。「2. シニア関連事業の拡大」では、2018年11月に設立した株式会社ネクストケア・イノベーションが2019年1月よりEC事業を開始しており、インターネットを利用した福祉用具の販売を展開しております。また、2019年3月から連結子会社となっている株式会社幸和ライフゼーション（旧有限会社パムック）は、デイサービス事業および福祉用具貸与（レンタル）事業等を行っており、介護サービス事業まで事業領域を拡大しております。「3. 介護ロボット事業の確立」では、「自立支援型転倒防止ロボット歩行車」の2021年2月期の上市に向けて開発を進め、開発と並行しながら販路開拓に向けて市場調査を行いました。「4. 海外市場の開拓」では、すでに老人長期療養保険制度（日本の介護保険制度に相当する制度）が導入されている韓国を中心に受注が堅調に推移しており、2018年2月に介護保険制度が導入となった台湾におきましても、販売代理店との関係強化や展示会への出店等、積極的に進めてまいりました。

(2) 経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

2021年2月期の連結業績予想につきましては、新型コロナウイルスの感染拡大が当社グループの業績に与える影響を鑑み、現時点において合理的に算定することが困難と判断し未定といたしました。

連結業績予想の合理的な算定が可能となった時点で速やかに開示いたします。

(3) 経営環境

当連結会計年度におけるわが国経済は、東京オリンピック・パラリンピックが控えるなか、雇用・所得環境の改善が見られるなど、緩やかな回復基調で推移いたしました。また、世界経済も緩やかに回復しているものの、中国を始めとするアジア新興国の経済の先行き不安や政策に関する不確実性による影響、金融資本市場の変動の影響等に加え、2020年1月下旬から大きく報道されている新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に収束の気配がなく、長期的な景気の落ち込みが予想されるなど、先行き不透明な状況が続いております。

しかし、高齢者人口は、「団塊の世代」が65歳以上となった2015年に3,558万人となり、「団塊の世代」が75歳以上となる2025年には3,677万人に達すると見込まれております。その後も高齢者人口は増加傾向が続き、2042年に3,935万人でピークを迎え、その後は減少に転じると推計されております。総人口が減少するなかで高齢者が増加することにより高齢化率は上昇を続け、2036年に33.3%で3人に1人が高齢者となり、2042年以降に高齢者人口が減少に転じても高齢化率の上昇傾向が続き、2065年には38.4%に達し、国民の約2.6人に1人が65歳以上の高齢者となる社会が到来すると予想されております。当社グループが属する介護用品・福祉用具業界におきましては、このような高齢化の進展にともない市場の拡大が期待されております。

(4) 事業上および財務上の対処すべき課題

当社グループは、持続的な発展のための礎となる経営基盤の強化と確立に向けて、以下の事項を重要な経営課題と認識し、今後、取り組んでまいります。

販売チャネルおよび取扱い製品領域の拡大

当社グループは、これまで、介護用品（介護保険対象外商品）についてホームセンターや量販店を中心に販路を広げてきました。2018年11月に当社連結子会社（当社株式持分51%）株式会社ネクストケア・イノベーションを設立し、2019年1月に株式会社ネクストより、EC事業の承継を受け、インターネット販売を開始しました。また今後、さらなる成長に向けて、百貨店、病院売店、ドラッグストアおよびかばん専門店など、販路の拡大を進めてまいります。

さらに、当社グループは、歩行車、シルバーカーおよび歩行補助杖など歩行系の介護用品・福祉用具を強みとして事業を展開してまいりましたが、2019年3月に、株式会社シクロケアを100%出資の連結子会社としております。同社は、介護保険における住宅改修用品および介護保険貸与（レンタル）の対象となる手すりやスロープ、また、介護保険販売の対象品目となる特定福祉用具の入浴補助具（すのこ）等の製造・販売を行っており、同社

の事業を当社グループに加えることによって、当社グループが取り扱う介護保険分野における製商品の領域の拡大、品揃えを強化することができております。今後も事業の成長を加速するため、販売チャネルおよび取扱製商品領域の拡大を行ってまいります。

シニア関連事業の拡大

当社グループは、2019年3月に有限会社パムックおよび株式会社あつるを100%出資の連結子会社としております。

有限会社パムックは、デイサービス事業、福祉用具のレンタル・販売事業および車いすのオーダーメイド事業を展開しており、自立支援を目的としたデイサービス事業、ご利用者の住環境に合わせた福祉用具を、ご利用者の視点に立って提案する福祉用具レンタル事業、そして、一人ひとりの体型やニーズに合わせて製作する車いすのオーダーメイド事業により、地域の介護福祉に貢献し、さらなる事業の拡大を目指します。また、株式会社あつるは、デイサービス事業および福祉用具レンタル事業を展開しております。同社のテリトリーは有限会社パムックのテリトリーに隣接しており、事業展開においてドミナントを形成し、両社の相乗効果によって効率的な経営を行うことが可能となり、両社の事業の拡大を図ってまいります。さらに、当社グループの強みは、市場からいち早くニーズを吸い上げ、製品化する開発力にあります。今後の市場における優位性の確保には開発力が重要であるという認識のもと、その経営資源の強化を課題として取り組んでまいります。

なお、有限会社パムックは2019年9月27日付で株式会社幸和ライフゼーションに商号変更を行っており、さらに2019年10月1日付で株式会社幸和ライフゼーションを存続会社とし、株式会社あつるを消滅会社とする吸収合併を行っております。

介護ロボットの事業化

当社グループは、2017年5月には東京、新橋に「ロボティクスR&Dセンター」を新設し、使用される現場のニーズに合致した「自立支援型転倒防止ロボット歩行車」の2021年2月期での上市を目指して開発に取り組んでおります。

今後は、従来の技術では解決できなかった介護の現場における問題を解決するため、ロボット技術を利用した製品の開発を強化し、介護ロボット製品市場の開拓に取り組んでまいります。

海外事業の推進

当社グループは、今後、高齢化社会を迎える東アジアおよび東南アジア地域（韓国、中国、台湾、香港、インドネシア、タイ）におきまして、介護用品・福祉用具の販売の強化に取り組んでおります。台湾におきましては、2018年に介護給付を目的とした制度の導入が開始されており、同国に対する営業活動を強化しております。また、すでに老人長期療養保険制度（日本の介護保険制度に相当する制度）が導入されている韓国では、韓国農業協同組合中央会（略称：農協中央会）から大口の受注を獲得するなど、海外からの受注が堅調に推移しております。当社グループは、海外でのこのような状況を踏まえ、積極的に海外における展示会に出展を行うことなどにより、海外事業の拡大に取り組んでまいります。

品質管理体制の強化

当社グループでは、ロレータ型歩行車「Michele（ミケーレ）」の自主回収により、2019年2月期において大きな損失を計上することとなりました。その反省に立ち、お取引先およびご利用者の信頼を回復すべく、設計プロセス、開発プロセスさらに生産プロセスにおけるすべての品質管理体制の見直しを実施いたしました。今後も安心・安全かつ高品質を担保するため、不良率の低減に向けた品質管理体制の構築に取り組んでまいります。

生産管理体制の強化

東莞幸和家庭日用品有限公司（当社連結子会社）において、部材等の調達原価の低減、生産工程内での不良率の低減および当社からの発注予測情報（フォーキャスト）の共有による生産リードタイムの短縮など、効率的な生産管理体制の強化に取り組んでまいります。

組織機能の向上および人材の育成

当社グループは、持続的な企業価値の向上を図るため、また、あらゆる経営課題を克服するためにグループ内の組織機能の関連性を強化し、継続して向上させることが課題と認識しております。当社グループはこれらの組織機能を支える重要な要素である人材について、かねてよりOJTや社内外の研修を通じてその育成に努めておりますが、今後も経営環境の変化に対して機動的に対応できる人材の確保および育成は、継続的な課題であると認識しております。

2【事業等のリスク】

本書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項は以下のとおりです。

ただし、以下の事項は当社グループに係る全ての事業等のリスクを網羅的に記載したのではなく、記載された事項以外にも予測の難しい事業等のリスクが存在するものと考えられます。また、そのようなリスク要因に該当しない事項についても、投資判断、あるいは当社グループの事業活動を理解する上で重要と考えられる事項については、投資者に対する積極的な開示を行うという観点から記載しております。

なお、文中の将来に関する事項は、本書提出日現在において当社グループの予測に基づいて判断したものであります。

(1) 生産体制に関するリスク

当社グループの生産体制は、当社が企画・開発した製品を生産子会社である東莞幸和家庭日用品有限公司で量産する体制を敷いております。当社グループは高品質と安全性の確保に重点を置き、中国の生産子会社での生産を今後も継続する方針であります。

しかしながら、当社グループが生産活動を行う海外における政治または法環境の変化、労働力の不足および人件費の高騰、ストライキ、物流網の混乱、経済状況の変化など、予期せぬ事象により生産設備の管理やその他の事業の遂行に問題が生じる可能性があります。

従いまして、これらの事象が発生した場合は、当社グループの経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 製品の欠陥および製造物責任に関するリスク

当社グループは、生産子会社である東莞幸和家庭日用品有限公司およびその他の協力工場において、一般財団法人製品安全協会のSG基準（製品安全規格）や工業標準化法に基づく国家規格のJIS（日本工業規格）および国際的な品質マネジメントシステム規格であるISO9001に従って製品の品質向上に努め、各種製品の製造および商品の仕入を行っております。

しかしながら、すべての製品や商品について欠陥が発生しないという保証はなく、当社グループが加入している製造物責任賠償に係る保険についても、最終的に負担する賠償額を十分に補うことを保証するものではありません。万一、製品の欠陥が発生した場合や顧客の安全のために大規模なリコールを実施した場合には、多額の損害賠償や製品回収費用を当社が負担するだけでなく、当社ブランドが著しく毀損し、売上高の減少につながる事が考えられます。このような場合、当社グループの経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 介護保険制度に関するリスク

当社グループが行っている事業は、介護保険制度に大きく影響を受けております。

社会の高齢化の進展にともない、介護を必要とする方の増加が見込まれておりますが、少子化・核家族化などにより家族だけで介護を支えることは困難な状況にあります。「介護保険制度」は、こうした状況を背景に、介護を必要とする状態となっても安心して生活が送れるよう、介護を社会全体で支えることを目的として2000年4月からスタートしたものです。

介護保険制度は、加入者が保険料を負担し合い、介護が必要なときに認定を受け、必要な介護サービスを利用する制度です。その介護保険の実施主体は市町村となっており、保険者として保険料と公費を財源として、介護保険事業を運営しております。介護保険制度の加入者（被保険者）は、年齢により第1号被保険者（65歳以上の方）と第2号被保険者（40歳～64歳の方で医療保険に加入されている方）に区分されており、第1号被保険者の方は原因を問わず、また、第2号被保険者の方は、加齢による病気（特定疾病）が原因で介護や支援が必要となった場合に要介護認定を受け、それぞれの要介護状態に応じたサービスを利用することができます。

この介護保険制度で受けることのできるサービスの一つに「福祉用具の貸与（レンタル）および購入」があり、要介護認定を受けた被保険者は、「福祉用具の貸与（レンタル）および購入」を10%の自己負担で利用することができます。当社の介護用品・卸売事業者等を対象とする営業部の売上高は、1,756,056千円（2020年2月期）となっており、売上高構成比で29.3%を占めております。このため、要介護認定を受ける被保険者の範囲、介護保険の適用となる福祉用具の範囲や利用者の負担率が変更されることで需要動向が変化し、当社グループの経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

また、当社グループの事業内容に、介護サービス事業が加わったことにより、3年毎の介護報酬の改定により収益に影響を受ける可能性があります。現在、介護サービス事業の当社グループ全体の売上高に占める割合は少ないものの、今後、構成比が高くなれば、当社グループの経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 為替変動に関するリスク

当社グループは、取扱製品および商品の輸出入取引を行っており、それらに係る外貨建金銭債権および債務について、為替相場の変動リスクを有しております。間接的な影響を含め、これらを排除することは困難であるため、為替相場の変動が当社グループの経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

また、当社グループの輸出入取引は、アジアを中心とした複数の国々との間で行われており、今後もその取引は継続されていくため、各国の経済情勢の変化および災害の発生等ともなう輸出入環境の変化が当社グループの経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 特定の取引先への依存についてのリスク

当社グループの販売先のうち、主たる取引先であるパナソニックエイジフリー株式会社に対する販売割合が2020年2月期連結会計年度末において10.5%を占めております。

当社グループでは、上記取引先と良好な取引関係を継続する方針であります。特定取引先に過度に依存しないよう、新規取引先の開拓に積極的に取り組んでおります。

しかしながら、上記取引先の当社に対する取引方針如何によっては、当社グループの経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 業績の季節変動に関するリスク

当社グループの主要な製品である歩行関連の福祉用具は、その性質上、母の日や敬老の日のプレゼント需要の影響を受けております。また、気温が低下する季節においては、高齢者の外出機会減少の影響を受けております。

このことより、気温の低下する季節を含む第4四半期の売上高が他の四半期と比べて小さくなるという季節変動性を持っております。当社グループでは、第4四半期においても売上を確保すべく努力してまいりますが、特定の四半期業績のみによって通期の業績見通しを判断することは困難であります。

なお、2020年2月期の当社グループの業績は以下のとおりです。

	2020年2月期 第1四半期	2020年2月期 第2四半期	2020年2月期 第3四半期	2020年2月期 第4四半期
売上高 (千円)	1,802,036	1,627,299	1,374,781	1,188,039
営業利益又は営業 損失 () (千円)	94,259	11,258	40,555	196,273

(7) 大手企業参入によるリスク

当社グループが属する福祉用具関連市場は、超高齢化社会を迎える我が国の有望な成長産業として、様々な業種や業態からの市場参入や新規事業化を目指した企業の取組が活発化しております。これまでは競合する企業は中小企業を中心でしたが、今後は大手企業の参入により、優位性、価格競争、市場シェア、収益等への影響が予測されます。このような競合が顕在化した場合には、当社グループの経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(8) カントリーリスクについて

当社グループは、当社製品の製造・販売を行う連結子会社を中国に設立しております。現地法人は中国の安価な人件費による製造原価の低減や現地企業の優位性を享受することおよび販路の拡大を目的として事業活動を行っておりますが、当社グループの事業に不利な影響を及ぼす法令または諸規制の制定および改廃、予期しない不利な経済的または政治的要因の発生、人件費高騰や人材確保に障害が発生した場合など、当社グループの想定している範囲を超えた事態が発生した場合、当社グループの経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 原材料の価格高騰のリスク

当社グループの製品の主な原材料は、アルミパイプおよび樹脂などになります。これらの原材料は資源価格の変動リスクに晒されており、不測の資源価格高騰により原材料コストの上昇が発生し、販売価格への転嫁が遅れる場合には、当社グループの経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(10) 物流コストの高騰リスク

当社グループの商品および製品の大半は海外からの輸入となっており、販売先への納品についても物流業者へ委託を行っております。このため、燃料の高騰や人件費の高騰などにより物流コストが急激に上昇した場合、当社グループの経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(11) 研究開発についてのリスク

当社グループは、従前より市場ニーズの変化に対応した新しい機能性製品の研究開発を推進しております。このため、市場ニーズが当社グループの想定を大きく超えて変化した場合や、市場ニーズに合った開発品を適時に製品化できない場合、当初の想定を超えて研究開発費が大きく増加した場合には、研究開発投資を回収できないことにより、当社グループの経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(12) 災害に関するリスク

当社グループは、火災や台風といった災害に備え、建物・機械設備・製品等の資産に対し損害補償を行う「企業財産総合保険」に加入しております。

しかしながら、地震や台風等の自然災害や火災等の事故災害が発生した場合、当社グループの拠点設備が大きな被害を受け、操業が一部中断、停止し生産および出荷が遅延する可能性があり、被害を受けた設備等の修復のため、多額の費用が発生するなど、当該災害が当社グループの経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

なお、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、当社の業績に影響を与える可能性があります。今後の感染拡大の規模や収束の時期についての見通しは立っておらず、現時点で業績に与える影響を予測することは困難であります。

また、当社グループでは、従業員のマスク着用や手洗いとアルコール消毒の徹底や、来客を必要最低限に控え、国内外の出張を原則禁止し、テレビ会議や在宅勤務の活用などを行い、接触機会の低減を行っております。

(13) 訴訟リスク

当社グループは、国内および海外事業に関して、取引先、当社製品の使用者その他との間で紛争が発生し、訴訟やその他の法的手続きの当事者となるリスクを有しております。重要な訴訟等の提起があり、裁判等において不利益な決定や判決がなされた場合には、当社グループの経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(14) 知的財産権についてのリスク

当社は、新製品の開発時に創出された知的財産権を有しております。これら知的財産権は重要な経営資源の一つであると認識しており、知的財産権の保護、知的財産権にからむ紛争の回避は重要な経営課題であります。

しかしながら、当社の知的財産権が、第三者により無効とされる可能性、特定の地域では十分な保護が得られない可能性や知的財産権が模倣される可能性もあり、当該知的財産権が完全に保護されないことによって、当社グループの経営成績や財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

また、当社では総務部総務課が知的財産権を一元的に管理しており、事前に調査を行っておりますが、結果として第三者の特許を侵害するに至った場合や、その他知的財産権に係る紛争が発生した場合は、当社グループの製品の生産および販売が制約されたり、損害賠償金の支払が発生し、当社グループの経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(15) 人材の確保についてのリスク

当社グループは、今後の事業拡大を図るため、継続した人材の確保が必要と考えており、優秀な人材を適切に確保するとともに、人材の育成に努めていく方針であります。

しかしながら、優秀な人材の確保が計画どおりに進捗しない場合、また、在籍する人材の多くが流出する等の状況が生じた場合には、競争力の低下や事業拡大に影響が生じる可能性があり、当社グループの経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(16) 内部管理体制についてのリスク

当社グループは、企業価値の継続的な向上を図るため、コーポレート・ガバナンスが有効に機能することが不可欠であると認識しております。業務の適正性および財務報告の信頼性の確保のための内部統制システムの適切な運用、さらに健全な倫理観に基づく法令遵守を徹底するにあたり十分な体制を構築していると考えておりますが、未だ発展途上にあり、今後の事業運営および事業拡大に対応するため、内部管理体制について一層の充実を図る必要があると認識しております。

しかしながら、事業の急速な拡大により、十分な内部管理体制の構築が追いつかない場合には、適切な業務運営が困難となり、当社グループの経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(17) 固定資産の減損についてのリスク

当社グループは、建物や製造設備等の有形固定資産を保有しており、固定資産の減損に係る会計基準を適用しておりますが、今後、大幅な企業収益の悪化や不動産価格の下落等があった場合には減損損失が発生し、当社グループの経営成績や財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(18) 金利変動および財務制限条項についてのリスク

当社グループの有利子負債依存度は、2020年2月期連結会計年度末において66.6%となっております。当社グループは、有利子負債の削減や金融収支の改善に努めておりますが、今後、有利子負債が増加した場合および金利が上昇した場合には支払利息が増加し、当社グループの経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。なお、当連結会計年度において財務制限条項に抵触したことによりコミットメントライン契約は終了しておりますが、借入実行残高はありません。

(19) 潜在株式による株式価値の希薄化についてのリスク

当社グループは、取締役および従業員の士気向上や優秀な人材の確保等を目的として、新株予約権を付与しております。2020年2月期連結会計年度末現在、新株予約権による潜在株式数は188,640株であり、発行済株式総数4,282,290株に対する割合は4.4%となっております。これらの新株予約権が行使された場合、当社の1株当たりの株式価値は希薄化し、当社株式の市場価格に影響を及ぼす可能性があります。

(20) M & A についてのリスク

当社グループは、事業領域の拡大や新規事業分野への早期の進出等による成長スピードの加速を目的として、M & A を事業展開の選択肢の一つとして考えております。

また、M & A の実施にあたり、対象企業の財務内容や契約関係等について公認会計士および弁護士等の外部専門家の助言を含めたデューデリジェンスを実施すること等により、各種リスクの低減に努めることを前提としております。

しかしながら、M & A による事業展開においては、予期しない事業リスク等の発生により業績が悪化、のれんの償却、減損等が発生し、当社グループの経営成績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

経営成績等の状況の概要

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度の末日現在において判断したものであります。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を当連結会計年度の期首から適用しており、財政状態については遡及処理後の前連結会計年度末の数値で比較を行っております。

また、在外連結子会社において、当連結会計年度の期首よりIFRS第16号「リース」を適用しております。詳細につきましては、「第5 経理の状況 1. 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項（会計方針の変更）」に記載しております。

(1) 経営成績および財政状態の概要

当連結会計年度におけるわが国経済は、東京オリンピック・パラリンピックが控えるなか、雇用・所得環境の改善が見られるなど、緩やかな回復基調で推移いたしました。また、世界経済も緩やかに回復しているものの、中国を始めとするアジア新興国の経済の先行き不安や政策に関する不確実性による影響、金融資本市場の変動の影響等に加え、2020年1月下旬から、大きく報道されている新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に収束の気配がなく、長期的な景気の落ち込みが予想されるなど、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況のなか、当社グループは、「1. 取扱い製品領域の拡大」、「2. シニア関連事業の拡大」、「3. 介護ロボット事業の確立」、「4. 海外事業の開拓」を主な経営方針として、事業活動を進めております。

当連結会計年度におきましては、「1. 取扱い製品領域の拡大」では、株式会社シクロケアを連結子会社とすることにより、同社が取り扱う介護保険における住宅改修用品および介護保険貸与（レンタル）の対象となる手すりやスロープ、また、介護保険販売の対象種目となる特定福祉用具の入浴補助具（すのこ）等と、これまで当社の市場シェアが低いもしくは参入できていなかった製品領域への参入を推進しております。「2. シニア関連事業の拡大」では、2018年11月に設立した株式会社ネクストケア・イノベーションが、2019年1月よりEC事業を開始しており、インターネットを利用した福祉用具の販売を展開しております。また、2019年3月から連結子会社となっている株式会社幸和ライフゼーション（旧有限会社パムック）は、デイサービス事業および福祉用具貸与（レンタル）事業等を行っており、介護サービス事業まで事業領域は拡大しております。「3. 介護ロボット事業の確立」では、「自立支援型転倒防止ロボット歩行車」の2021年2月期の上市に向けて開発が進んでおり、開発と並行しながら販路開拓に向けて市場調査を行っておりました。「4. 海外市場の開拓」では、すでに老人長期療養保険制度（日本の介護保険に相当する制度）が導入されている韓国を中心に受注は堅調に推移しており、2018年2月より介護保険制度が導入となった台湾におきましては、販売代理店との関係強化や展示会への出展等を進めてまいりました。

この結果、当連結会計年度の財政状態および経営成績は以下のとおりとなりました。

a. 財政状態

当連結会計年度末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ1,592,937千円増加し、6,310,390千円となりました。当連結会計年度末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ2,020,924千円増加し、5,466,616千円となりました。当連結会計年度末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ427,986千円減少し、843,773千円となりました。

b. 経営成績

当連結会計年度の経営成績は、売上高5,992,157千円（前年同期比32.4%増）、営業損失131,310千円（前年同期は営業損失272,882千円）、経常損失は110,653千円（前年同期は経常損失262,200千円）、親会社株主に帰属する当期純損失は、367,327千円（前年同期は親会社株主に帰属する当期純損失358,158千円）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

なお、当連結会計年度より、報告セグメントを「介護用品・福祉用具製造販売事業」、「介護サービス事業」および「その他の事業」に区分しております。

介護用品・福祉用具製造販売事業

介護用品・福祉用具製造販売事業の当連結会計年度の売上高は、前連結会計年度に発生した自主回収の影響が収束し、介護ルートでの受注が回復したこと等により、4,869,602千円となりました。セグメント利益は208,000千円となりました。

介護サービス事業

介護サービス事業の当連結会計年度の売上高は622,439千円、セグメント損失は102,197千円となりました。

その他の事業

その他の事業の当連結会計年度の売上高は500,115千円、セグメント損失は9,572千円となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、2,639,163千円となり、前連結会計年度末に比べ229,851千円増加いたしました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、117,165千円（前年同期は215,316千円の使用）となりました。主な要因は、税金等調整前当期純損失356,601千円、売上債権の増加額163,865千円、減損損失207,970千円、減価償却費211,033千円、仕入債務の減少額101,406千円、法人税等の還付額21,282千円等であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、256,826千円（前年同期は368,296千円の使用）となりました。主な要因は、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出137,033千円、有形固定資産の取得による支出157,700千円、有形固定資産の売却による収入30,492千円であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られた資金は、383,497千円（前年同期は1,470,057千円の獲得）となりました。主な要因は、長期借入れによる収入1,440,000千円、株式の発行による収入52,265千円、リース債務の返済による支出98,085千円、長期借入金の返済による支出925,130千円、配当金の支払額72,441千円等であります。

生産、受注及び販売の実績

(1) 生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)	
	金額(千円)	前年同期比(%)
介護用品・福祉用具製造販売事業	1,483,441	95.2
介護サービス事業	275,246	-
報告セグメント計	1,758,687	-
その他	-	-
合計	1,758,687	

(注) 1. 金額は製造原価によっており、セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 商品仕入実績

当連結会計年度の商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)	
	金額(千円)	前年同期比(%)
介護用品・福祉用具製造販売事業	2,214,111	114.6
介護サービス事業	247,257	-
報告セグメント計	2,461,368	-
その他	283,852	-
合計	2,745,221	

(注) 1. 金額は実際仕入原価によっており、セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 受注実績

当連結会計年度の受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)			
	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
介護用品・福祉用具製造販売事業	795,923	79.6	156,631	55.7
介護サービス事業	288,964	-	13,718	-
報告セグメント計	1,084,887	-	170,350	-
その他	-	-	-	-
合計	1,084,888		170,350	

(注) 1. 金額は販売価格によっており、セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 金額には、消費税等は含まれておりません。

(4) 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)	
	金額(千円)	前年同期比(%)
介護用品・福祉用具製造販売事業	4,869,602	107.6
介護サービス事業	622,439	-
報告セグメント計	5,492,042	-
その他	500,115	-
合計	5,992,157	

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績および当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)		当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
パナソニックエイジフリー株式会社	628,893	13.9	627,728	10.5

3. 金額には、消費税等は含まれておりません。

経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識および分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

(1) 重要な会計方針および見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成しております。なお、「重要な会計方針および見積り」については、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載のとおりであります。

また、新型コロナウイルス感染拡大にともなう影響に対する会計上の見積りにつきましては、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項(追加情報)」および「第5 経理の状況 2 財務諸表等 (1) 財務諸表 注記事項(追加情報)」をご参照ください。

(2) 当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識および分析・検討内容

売上高および売上総利益

新商品である女性向けロータ型歩行車「ミシェル」の発売や前連結会計年度に発生した製品自主回収の影響が収束した介護ルートでの受注が回復したことに加え、韓国よりシルバーカーの大口注文を受け出荷が実現したこと、および新たに増加した連結子会社の売上が加わったことなどにより、売上高は5,992,157千円(前期比32.4%増)となりました。利益面では、粗利率の高い歩行車の売上構成比が低下したこと等により、売上総利益率が前年に比べ0.6ポイント改善し、返品調整引当金控除後の売上総利益は、2,771,307千円(同33.0%増)となりました。

販売費及び一般管理費および営業利益

事業規模の拡大と新規事業への進出を目的としたM&Aによる子会社の増加にともない、給与手当248,723千円、法定福利費37,607千円、減価償却費52,315千円等が増加したことにより2,902,618千円(同23.2%増)となり、その結果、営業損失は131,310千円(前年同期は営業損失272,882千円)となりました。

営業外損益および経常利益

政府補助金事業等による補助金収入、前連結会計年度に発生した製品自主回収にともなうPL保険による受取保険金等により営業外収益111,501千円(同180.0%増)を計上し、支払利息、売上割引等により営業外費用90,843千円(同211.8%増)を計上した結果、当連結会計年度の経常損失は110,653千円(前年同期は経常損失262,200千円)となりました。

特別損益および当期純利益

特別利益として負ののれん発生益等を、特別損失として投資有価証券評価損および減損損失等を計上したことにより、当連結会計年度の税金等調整前当期純損失は356,601千円(前年同期は税金等調整前当期純損失310,728千円)となり、法人税、住民税及び事業税、法人税等調整額を計上した結果、当連結会計年度の親会社株主に帰属する当期純損失は367,327千円(前年同期は親会社株主に帰属する当期純損失358,158千円)となりました。

(3) 財政状態の分析

流動資産

流動資産は、前連結会計年度末と比較し328,150千円増加の4,342,727千円となりました。主な要因は、その他に含まれる会社分割による前払金が178,000千円、未収還付法人税が38,890千円減少したものの、現金及び預金が215,351千円、受取手形及び売掛金が325,556千円増加したこと等によるものであります。

固定資産

固定資産は、前連結会計年度末と比較し、1,264,787千円増加の1,967,662千円となりました。主な要因は、無形リース資産が30,002千円、投資有価証券が77,049千円減少したものの、建物が253,008千円、土地が438,358千円、在外連結子会社におけるIFRS第16号「リース」の適用による使用権資産が530,926千円増加したこと等によるものであります。

流動負債

流動負債は、前連結会計年度末と比較し、483,465千円増加の1,982,498千円となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金が71,711千円、賞与引当金が14,083千円減少したものの、未払金が110,867千円、1年内返済予定の長期借入金が253,314千円、リース債務が67,590千円増加したこと等によるものであります。

固定負債

固定負債は、前連結会計年度末と比較し、1,537,459千円増加の3,484,118千円となりました。主な要因は、長期借入金が1,078,052千円、在外連結子会社におけるIFRS第16号「リース」の適用によるリース債務が459,207千円増加したこと等によるものであります。

純資産

純資産は、前連結会計年度末と比較し、427,986千円減少の843,773千円となりました。主な要因は、中間配当72,441千円および親会社株主に帰属する当期純損失367,327千円等の減少が、新株予約権の行使による資本金および資本剰余金52,816千円等の増加を上回ったことによるものであります。

(4) キャッシュ・フローの状況の分析

キャッシュ・フローの状況につきましては、「経営成績等の状況の概要 (3) キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因について

経営成績に重要な影響を与える要因につきましては、「2 事業等のリスク」に記載のとおり、様々なリスク要因が当社グループの経営成績に重要な影響を与える可能性があることと認識しております。

そのため、経営成績に重要な影響を与えるリスク要因を分散・低減し、適切に対応を行ってまいります。

(6) 経営者の問題認識と今後の方針について

経営者の問題認識については「1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等」に記載のとおりであります。

(7) 経営戦略の現状と見通し

経営戦略の現状と見通しについては、「1 経営方針、経営環境および対処すべき課題等」に記載のとおりであります。

(8) 資本の財源および資金の流動性

当社グループの運転資金需要のうち主なものは、製造費、販売費及び一般管理費等の営業費用であります。投資を目的とした資金需要は、設備投資、M & A等によるものであります。

当社グループは、事業運営上必要な流動性と資金の源泉を安定的に確保することを基本方針としております。

短期運転資金は自己資金を基本としており、設備投資や長期運転資金の調達につきましては、金融機関からの長期借入を基本としております。

なお、当連結会計年度末における借入金およびリース債務を含む有利子負債の残高は4,204,640千円となっております。また、当連結会計年度末における現金及び現金同等物の残高は2,639,163千円となっております。

4【経営上の重要な契約等】

当社は、2019年7月8日開催の取締役会において、2019年10月1日を効力発生日として、当社の連結子会社である株式会社幸和ライフゼーション(2019年9月27日付で、「有限会社パムック」から「株式会社幸和ライフゼーション」へ商号変更しております。)を吸収合併存続会社とし、同じく当社の連結子会社である株式会社あつぷるを吸収合併消滅会社とする吸収合併を行うことを決議し、2019年7月16日付で吸収合併契約を締結いたしました。

詳細につきましては、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項(企業結合等関係)」に記載のとおりです。

5【研究開発活動】

当社グループの研究開発活動は、福祉用具の総合メーカーとして、歩行支援、入浴支援、排泄支援等、様々な福祉用具を全方位に研究開発し、高齢者の方々が「幸せを感じ、心が豊かになる」価値の高い製品を数多く創り出すことを基本姿勢としております。

当社グループの研究開発活動は、国内では当社開発本部で、国外では、中国広東省東莞市において東莞幸和家庭日用品有限公司開発本部が担っております。

製品化にあたっては、主に次の四つのフェーズにおいて社内会議を経て推進しております。第一フェーズとして製品企画と開発スタートの承認、第二フェーズとして仕様決定と金型着工の承認、第三フェーズとして価格決定と量産の承認であります。そして、第四フェーズとして上市後の販売状況や顧客からのフィードバックを受けて検証を行い、次の開発に向けての参考としております。

当連結会計年度のグループ全体の研究開発費の総額は、241,227千円であり、セグメントごとの活動概要は以下のとおりであります。

(介護用品・福祉用具製造販売事業)

当社グループの主力製品が属する歩行支援分野において、介護保険対象品目である歩行車「ミシェル」を発売いたしました。同製品は女性ユーザーの歩行の目的に着目し、杖やバッグの着脱を簡単に行えることで通院や買い物、コミュニティへの参加等をより積極的に行えるよう配慮しております。また市場拡大中である片手で押して杖代わりに使える横押しカートシリーズの第二弾として「aカートレフィノ」「aカートレフィノZ」を発売いたしました。同製品は、当社が昨年発売した「aカートショッピング」で好評であった業界初となる引いても使える機能を継承しており、日帰り旅行などアクティブシニアのニーズを実現した、2層収納バッグや駐車ブレーキ機能の特徴とした製品であり「aカート」シリーズの上位機種と位置付けております。

また、一般販売向けに低価格でコンパクトな折りたたみ機能を実現した歩行車「マルシェ」や、立ち上がる際の補助として使用できる補助グリップ付きの伸縮杖「たつサポ」などの歩行支援分野製品、屋内において座位から立ち上がる際の補助として使用する据置型手すりの「つかまりたちち」、玄関の上がり框における段差解消、また手すりとして使用できる「テイコブ玄関用ステップ(手すり付)」など屋内支援分野の製品も発売いたしました。

介護ロボット分野におきましては、産業技術の幅広い分野において日本最大級の研究機関である国立研究開発法人産業技術総合研究所とともに転倒防止ロボット歩行車の共同研究を進めております。活動内容としましては、歩行車へ重心偏倚抑制機能を付加することによる、転倒を防止する機能の効果検証および有用性の改善を行い、研究開発を進めております。

また、コミュニケーションロボットにつきまして、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(略称:AMED)より公募のありました「ロボット介護機器開発・標準化事業(開発補助事業)」において、当社の「開発課題名:認知症の人の生活不安・ストレスを軽減するコミュニケーションロボットの研究開発~認知症バリアフリー機器の開発~」が採択されました。当該製品の研究開発は、軽度の認知症の方を対象に物忘れなどに起因する生活の不安を取り除くため、利用者を支援するコミュニケーションロボットを目指しており、「一般社団法人日本認知症本人ワーキンググループ」の協力のもと認知症の方からも助言をいただくことにより、より実効性の高いコミュニケーションロボットの研究開発を進めております。

事業活動を通じて専門的な研究を行い、シニアの生活をリードする先進的な福祉用具等を産出することを目的とし設立しましたシニア未来研究所におきましては、高齢者や要介護認定者が歩行車を使用した際に起こる転倒についての評価技法を研究しております。具体的な活動内容としましては、人体各部位の重心位置、質量、関節可動域などを再現した人体モデルを用いて実際の転倒を想定した状態を再現し、様々な転倒の種類や方向による人体モデルと対象機器の動きを測定し分析いたしました。

(介護サービス事業)

介護サービス事業においては、研究開発活動は行っておりません。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

(介護用品・福祉用具製造販売事業)

当連結会計年度は、事業規模の拡大に備えた本社隣接地(111,428千円)および東莞幸和家庭日用品有限公司における新製品の金型(28,535千円)等の投資を行い、その投資額は156,775千円であります。

なお、当連結会計年度において、新規事業参入を目的としたM&Aにより、株式会社シクロケアを取得し、建物(49,669千円)、土地(53,700千円)等がそれぞれ増加しております。

また、東莞幸和家庭日用品有限公司においてIFRS16号「リース」を適用したことにより、使用权資産(530,926千円)が増加しております。

(介護サービス事業)

当連結会計年度は、車両運搬具(4,030千円)等の投資を行い、その投資額は6,812千円であります。

なお、当連結会計年度において、新規事業参入を目的としたM&Aにより、株式会社幸和ライフゼーション(旧有限会社パムック)を取得し、建物(221,115千円)、土地(259,400千円)等が増加しております。

(その他の事業)

特記すべき事項はありません。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

(1) 提出会社

2020年2月29日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額						従業員数 (人)
			建物 (千円)	機械装置及 び運搬具 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	リース資産 (千円)	その他 (千円)	合計 (千円)	
本社 (大阪府堺市堺区)	介護用品・福祉用具製造販売事業	本社機能	29,515	-	328,288 (1,830.5)	10,371	10,734	378,908	86 (12)
幸和メンテナンスセンター (大阪府泉大津市)	介護用品・福祉用具製造販売事業	物流拠点	430	-	-	-	894	1,324	7
関東営業所 (埼玉県さいたま市大宮区)	介護用品・福祉用具製造販売事業	営業拠点	94	-	-	-	53	148	13 (2)
ロボティクスR&Dセンター (東京都港区)	介護用品・福祉用具製造販売事業	開発拠点	-	-	-	-	38	38	3

(2) 国内子会社

2020年2月29日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額						従業員数 (人)
				建物 (千円)	機械装置及 び運搬具 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	リース資産 (千円)	その他 (千円)	合計 (千円)	
株式会社幸和ライフゼーション	本社 (東京都江戸川区)	介護サービス事業	本社機能	221,115	0	259,400 (483.03)	0	0	480,515	37 (41)
株式会社シクロケア	本社 (大阪府羽曳野市)	介護用品・福祉用具製造販売事業	本社機能	49,669	942	53,700 (706.77)	-	543	104,856	4 (7)

(3) 在外子会社

2020年2月29日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額						従業員数 (人)
				建物 (千円)	機械装置及 び運搬具 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	使用権資産 (千円)	その他 (千円)	合計 (千円)	
東莞幸和家庭日用品有限公司	東莞工場 (中国広東省東莞市)	介護用品・福祉用具製造販売事業	生産拠点	54,172	6,832	-	530,926	53,342	645,273	221

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品であります。なお、金額には消費税等を含めておりません。

2. 上記のほか、主要な賃借設備として、以下のものがあります。

事業所名 (所在地)	設備の内容	賃借料 (千円)
幸和メンテナンスセンター (大阪府岸和田市)	物流拠点	15,186

3. 従業員数の()は、臨時雇用者数を外書しております。

4. 株式会社ネクストケア・イノベーションの設備につきましては、重要性が乏しいため記載を省略しております。

3【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

当社グループにおける重要な設備の新設の計画は以下のとおりであります。

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手および 完了予定年月		完成後 の増加 能力
				総額 (千円)	既支払額 (千円)		着手	完了	
東莞幸和家庭日用品有限公司	東莞工場 (中国広東省東莞市)	介護用品・福祉用具製造販売事業	生産管理システム	36,239	-	リース契約	2020年 5月	2021年 3月	-

(注) 上記の金額に消費税等は含まれておりません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	13,500,000
計	13,500,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (2020年2月29日)	提出日現在発行数(株) (2020年6月30日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	4,282,290	4,333,770	東京証券取引所 JASDAQ(スタンダード)	単元株式数 100株
計	4,282,290	4,333,770	-	-

(注) 「提出日現在発行数」欄には、2020年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

会社法に基づき発行した新株予約権は、次のとおりであります。

第1回新株予約権(2011年6月17日臨時株主総会決議)

決議年月日	2011年6月17日
付与対象者の区分および人数(名)	当社取締役 4 当社従業員 1
新株予約権の数(個)	390[0]
新株予約権の目的となる株式の種類、内容および数(株)	普通株式 11,700[0](注)1
新株予約権の行使時の払込金額(円)	177(注)2、3
新株予約権の行使期間	自 2013年6月21日 至 2021年6月17日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格および資本組入額(円)	発行価格 177 資本組入額 89
新株予約権の行使の条件	新株予約権者は、その権利行使時においても、当社または当社の子会社の取締役、監査役または従業員の地位にあることを要するものとする。
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社の取締役会の承認を要するものとする。
組織再編成行為にともなう新株予約権の交付に関する事項	(注)4

当事業年度の末日(2020年2月29日)における内容を記載しております。当事業年度の末日から提出日の前月末現在(2020年5月31日)にかけて変更された事項については、提出日の前月末現在における内容を[]内に記載しており、その他の事項については当事業年度の末日における内容から変更はありません。

(注)1. 新株予約権1個の目的となる株式数は、普通株式30株であります。ただし、新株予約権発行後、当社が普通株式につき、株式分割(株式無償割当を含むものとする。)または株式併合を行う場合、次の算式により目的株式数を調整する。

$$\text{調整後目的株式数} = \text{調整前目的株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

2. 新株予約権を発行後、当社が普通株式につき、株式分割、株式併合を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数はこれを切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

3. 新株予約権発行後、当社が時価を下回る価額で普通株式につき株式の発行または自己株式の処分を行う場合(転換予約権付株式および強制転換条項付株式の転換ならびに単元未満株式売渡請求権および新株予約権の行使の場合は除く。)は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じた1円未満の端数はこれを切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{新規発行前の時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

4. 当社が組織再編を実施する際の新株予約権の取扱いについては、当該組織再編の比率に応じて以下に定める株式会社の新株予約権を新たに与えるものとする。ただし、組織再編に際して定める契約書または計画書において、以下に定める株式会社の新株予約権を与える旨を定めた場合に限る。

合併（当社が消滅する場合に限る）

合併後存続する株式会社または合併により設立する会社

吸収分割

吸収分割をする株式会社がその事業に関して有する権利義務の全部または一部を継承する会社

新設分割

新設分割による設立する株式会社

株式交換

株式交換をする株式会社の発行済株式の全部を取得する株式会社

株式移転により設立する株式会社

株式移転により設立する株式会社

第2回新株予約権（2011年9月28日臨時株主総会決議）

決議年月日	2011年9月28日
付与対象者の区分および人数（名）	当社取締役 4 当社従業員 1
新株予約権の数（個）	600[0]
新株予約権の目的となる株式の種類、内容および数（株）	普通株式 18,000[0]（注）1
新株予約権の行使時の払込金額（円）	217（注）2、3
新株予約権の行使期間	自 2013年10月1日 至 2021年9月28日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格および資本組入額（円）	発行価格 217 資本組入額 109
新株予約権の行使の条件	新株予約権者は、その権利行使時においても、当社または当社の子会社の取締役、監査役または従業員の地位にあることを要するものとする。
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社の取締役会の承認を要するものとする。
組織再編成行為にともなう新株予約権の交付に関する事項	（注）4

当事業年度の末日（2020年2月29日）における内容を記載しております。当事業年度の末日から提出日の前月末現在（2020年5月31日）にかけて変更された事項については、提出日の前月末現在における内容を〔 〕内に記載しており、その他の事項については当事業年度の末日における内容から変更はありません。

（注）1．新株予約権1個の目的となる株式数は、普通株式30株であります。ただし、新株予約権発行後、当社が普通株式につき、株式分割（株式無償割当を含むものとする。）または株式併合を行う場合、次の算式により目的株式数を調整する。

$$\text{調整後目的株式数} = \text{調整前目的株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

2．新株予約権を発行後、当社が普通株式につき、株式分割、株式併合を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数はこれを切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

3．新株予約権発行後、当社が時価を下回る価額で普通株式につき株式の発行または自己株式の処分を行う場合（転換予約権付株式および強制転換条項付株式の転換ならびに単元未満株式売渡請求権および新株予約権の行使の場合は除く。）は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じた1円未満の端数はこれを切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{新規発行前の時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

4. 当社が組織再編を実施する際の新株予約権の取扱いについては、当該組織再編の比率に応じて以下に定める株式会社の新株予約権を新たに与えるものとする。ただし、組織再編に際して定める契約書または計画書において、以下に定める株式会社の新株予約権を与える旨を定めた場合に限る。

合併（当社が消滅する場合に限る）

合併後存続する株式会社または合併により設立する会社

吸収分割

吸収分割をする株式会社とその事業に関して有する権利義務の全部または一部を継承する会社

新設分割

新設分割による設立する株式会社

株式交換

株式交換をする株式会社の発行済株式の全部を取得する株式会社

株式移転により設立する株式会社

株式移転により設立する株式会社

第3回新株予約権（2015年2月24日臨時株主総会決議）

決議年月日	2015年2月24日
付与対象者の区分および人数（名）	当社取締役 4 当社従業員 89
新株予約権の数（個）	3,879 [3,353]
新株予約権の目的となる株式の種類、内容および数（株）	普通株式 116,370 [100,590]（注）1
新株予約権の行使時の払込金額（円）	550（注）2、3
新株予約権の行使期間	自 2017年3月1日 至 2025年2月23日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格および資本組入額（円）	発行価格 550 資本組入額 275
新株予約権の行使の条件	新株予約権者は、その権利行使時においても、当会社または当会社の子会社の取締役、または従業員の地位にあることを要するものとする。
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社の取締役会の承認を要するものとする。
組織再編成行為にともなう新株予約権の交付に関する事項	（注）4

当事業年度の末日（2020年2月29日）における内容を記載しております。当事業年度の末日から提出日の前月末現在（2020年5月31日）にかけて変更された事項については、提出日の前月末現在における内容を [] 内に記載しており、その他の事項については当事業年度の末日における内容から変更はありません。

（注）1．新株予約権1個の目的となる株式数は、普通株式30株であります。ただし、新株予約権発行後、当社が普通株式につき、株式分割（株式無償割当を含むものとする。）または株式併合を行う場合、次の算式により目的株式数を調整する。

$$\text{調整後目的株式数} = \text{調整前目的株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

2．新株予約権を発行後、当社が普通株式につき、株式分割、株式併合を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数はこれを切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

3．新株予約権発行後、当社が時価を下回る価額で普通株式につき株式の発行または自己株式の処分を行う場合（転換予約権付株式および強制転換条項付株式の転換ならびに単元未満株式売渡請求権および新株予約権の行使の場合は除く。）は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じた1円未満の端数はこれを切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{新規発行前の時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

4. 当社が組織再編を実施する際の新株予約権の取扱いについては、当該組織再編の比率に応じて以下に定める株式会社の新株予約権を新たに与えるものとする。ただし、組織再編に際して定める契約書または計画書において、以下に定める株式会社の新株予約権を与える旨を定めた場合に限る。

合併（当社が消滅する場合に限る）

合併後存続する株式会社または合併により設立する会社

吸収分割

吸収分割をする株式会社とその事業に関して有する権利義務の全部または一部を継承する会社

新設分割

新設分割による設立する株式会社

株式交換

株式交換をする株式会社の発行済株式の全部を取得する株式会社

株式移転により設立する株式会社

株式移転により設立する株式会社

第4回新株予約権（2015年12月25日臨時株主総会決議）

決議年月日	2015年12月25日								
付与対象者の区分および人数（名）	<table> <tr> <td>当社取締役</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>当社監査役</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>当社従業員</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>外部協力者</td> <td>1</td> </tr> </table>	当社取締役	4	当社監査役	2	当社従業員	18	外部協力者	1
当社取締役	4								
当社監査役	2								
当社従業員	18								
外部協力者	1								
新株予約権の数（個）	853[653]								
新株予約権の目的となる株式の種類、内容および数（株）	普通株式 25,590[19,590]（注）1								
新株予約権の行使時の払込金額（円）	550（注）2、3								
新株予約権の行使期間	自 2018年1月16日 至 2025年12月24日								
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格および資本組入額（円）	<table> <tr> <td>発行価格</td> <td>550</td> </tr> <tr> <td>資本組入額</td> <td>275</td> </tr> </table>	発行価格	550	資本組入額	275				
発行価格	550								
資本組入額	275								
新株予約権の行使の条件	新株予約権者は、その権利行使時においても、当会社または当会社の子会社の取締役、監査役または従業員の地位にあること、もしくは当会社が認めた外部協力者であることを要するものとする。								
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社の取締役会の承認を要するものとする。								
組織再編成行為にともなう新株予約権の交付に関する事項	（注）4								

当事業年度の末日（2020年2月29日）における内容を記載しております。当事業年度の末日から提出日の前月末現在（2020年5月31日）にかけて変更された事項については、提出日の前月末現在における内容を〔 〕内に記載しており、その他の事項については当事業年度の末日における内容から変更はありません。

（注）1．新株予約権1個の目的となる株式数は、普通株式30株であります。ただし、新株予約権発行後、当社が普通株式につき、株式分割（株式無償割当を含むものとする。）または株式併合を行う場合、次の算式により目的株式数を調整する。

$$\text{調整後目的株式数} = \text{調整前目的株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

2．新株予約権を発行後、当社が普通株式につき、株式分割、株式併合を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数はこれを切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

3．新株予約権発行後、当社が時価を下回る価額で普通株式につき株式の発行または自己株式の処分を行う場合（転換予約権付株式および強制転換条項付株式の転換ならびに単元未満株式売渡請求権および新株予約権の行使の場合は除く。）は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じた1円未満の端数はこれを切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{新規発行前の時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

4. 当社が組織再編を実施する際の新株予約権の取扱いについては、当該組織再編の比率に応じて以下に定める株式会社の新株予約権を新たに与えるものとする。ただし、組織再編に際して定める契約書または計画書において、以下に定める株式会社の新株予約権を与える旨を定めた場合に限る。

合併（当社が消滅する場合に限る）

合併後存続する株式会社または合併により設立する会社

吸収分割

吸収分割をする株式会社とその事業に関して有する権利義務の全部または一部を継承する会社

新設分割

新設分割による設立する株式会社

株式交換

株式交換をする株式会社の発行済株式の全部を取得する株式会社

株式移転により設立する株式会社

株式移転により設立する株式会社

第5回新株予約権（2017年1月30日臨時株主総会決議）

決議年月日	2017年1月30日
付与対象者の区分および人数（名）	当社従業員 3
新株予約権の数（個）	566
新株予約権の目的となる株式の種類、内容および数（株）	普通株式 16,980（注）1
新株予約権の行使時の払込金額（円）	550（注）2、3
新株予約権の行使期間	自 2019年2月2日 至 2027年1月29日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格および資本組入額（円）	発行価格 550 資本組入額 275
新株予約権の行使の条件	新株予約権者は、その権利行使時においても、当会社または当会社の子会社の取締役、または従業員の地位にあることを要するものとする。
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社の取締役会の承認を要するものとする。
組織再編成行為にともなう新株予約権の交付に関する事項	（注）4

当事業年度の末日（2020年2月29日）における内容を記載しております。提出日の前月末現在（2020年5月31日）において、記載すべき内容が当事業年度の末日における内容から変更がないため、提出日の前月末現在に係る記載を省略しております。

- （注）1．新株予約権1個の目的となる株式数は、普通株式30株であります。ただし、新株予約権発行後、当社が普通株式につき、株式分割（株式無償割当を含むものとする。）または株式併合を行う場合、次の算式により目的株式数を調整する。

$$\text{調整後目的株式数} = \text{調整前目的株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

- 2．新株予約権を発行後、当社が普通株式につき、株式分割、株式併合を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数はこれを切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

- 3．新株予約権発行後、当社が時価を下回る価額で普通株式につき株式の発行または自己株式の処分を行う場合（転換予約権付株式および強制転換条項付株式の転換ならびに単元未満株式売渡請求権および新株予約権の行使の場合は除く。）は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じた1円未満の端数はこれを切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{新規発行前の時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

4. 当社が組織再編を実施する際の新株予約権の取扱いについては、当該組織再編の比率に応じて以下に定める株式会社の新株予約権を新たに与えるものとする。ただし、組織再編に際して定める契約書または計画書において、以下に定める株式会社の新株予約権を与える旨を定めた場合に限る。
- 合併（当社が消滅する場合に限る）
 - 合併後存続する株式会社または合併により設立する会社
 - 吸収分割
 - 吸収分割をする株式会社とその事業に関して有する権利義務の全部または一部を継承する会社
 - 新設分割
 - 新設分割による設立する株式会社
 - 株式交換
 - 株式交換をする株式会社の発行済株式の全部を取得する株式会社
 - 株式移転により設立する株式会社
 - 株式移転により設立する株式会社

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2017年8月4日 (注)1	1,021,959	1,135,510	-	178,670	-	105,040
2017年11月28日 (注)2	150,000	1,285,510	242,880	421,550	242,880	347,920
2017年12月27日 (注)3	38,700	1,324,210	62,663	484,213	62,663	410,583
2018年3月1日 (注)4	2,648,420	3,972,630	-	484,213	-	410,583
2018年3月1日～ 2019年2月28日 (注)5	213,630	4,186,260	51,039	535,252	51,039	461,622
2019年3月1日～ 2020年2月29日 (注)5	96,030	4,282,290	26,408	561,660	26,408	488,031

(注)1. 株式分割(1:10)によるものであります。

2. 有償一般募集(ブックビルディング方式による募集)

発行価格 3,520円
引受価額 3,238.40円
資本組入額 1,619.20円
払込金総額 485,760千円

3. 有償第三者割当(オーバーアロットメントによる売出し)

割当先 S M B C日興証券株式会社
発行株数 38,700株
発行価格 3,238.40円
資本組入額 1,619.20円
払込金総額 125,326千円

4. 株式分割(1:3)によるものであります。

5. 新株予約権(ストックオプション)の権利行使による増加であります。

6. 当事業年度の末日(2020年2月29日)から提出日の前月末現在(2020年5月31日)までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が51,480株、資本金および資本準備金がそれぞれ8,977千円増加しております。

(5)【所有者別状況】

2020年2月29日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況 (株)
	政府および 地方公共団 体	金融機関	金融商品取 引業者	その他の法 人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	1	19	27	15	6	1,886	1,954	-
所有株式数 (単元)	-	29	466	24,467	1,400	9	16,431	42,802	2,090
所有株式数の割 合(%)	-	0.05	0.97	1.38	0.76	0.31	96.52	100.00	-

(6) 【大株主の状況】

2020年2月29日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
株式会社秀一	大阪府堺市堺区緑ヶ丘中町4丁目4-18	2,407	56.22
玉田 栄一	大阪府堺市堺区	264	6.16
玉田 秀明	大阪府堺市堺区	247	5.77
玉田 京子	大阪府堺市堺区	115	2.69
BNYM SA/NV FOR BNYM FOR BNYM GCM CLIENT ACCTS M ILM FE (常任代理人 株式会社三菱UFJ 銀行)	2 KING EDWARD STREET LONDON EC1A 1HQ UNITED KINGDOM (東京都千代田区丸の内2丁目7番1 号)	49	1.16
BNYM SA/NV FOR BNYM FOR BNYM GCM CLIENT ACCT E PSMP J (常任代理人 株式会社三菱UFJ 銀行)	125 LONDON WALL LONDON BC2Y5AJ UNITED KINGDOM (東京都千代田区丸の内2丁目7番1 号)	25	0.59
木根 正裕	大阪府堺市北区	24	0.57
BNP PARIBAS LONDON BRANCH FOR PRIME BROKERAGE CLEARANCE ACC FOR THIRD PARTY (常任代理人 香港上海銀行東京支 店)	10 HAREWOOD AVENUE LONDON NW1 6AA (東京都中央区日本橋3丁目11番1 号)	22	0.53
大井 実	滋賀県大津市	17	0.41
BNYM SA/NV FOR BNYM FOR BNY GCM CLIENT ACCOUNTS M LSCB RD (常任代理人 株式会社三菱UFJ 銀行)	1 CHURCH PLACE, LONDON, E14 5HP UK (東京都千代田区丸の内2丁目7番1 号)	16	0.38
計	-	3,191	74.52

(7)【議決権の状況】
【発行済株式】

2020年2月29日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,280,200	42,802	-
単元未満株式	普通株式 2,090	-	-
発行済株式総数	4,282,290	-	-
総株主の議決権	-	42,802	-

【自己株式等】

2020年2月29日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

(注) 議決権行使基準日現在の自己株式数は66株、発行済株式総数に対する所有株式数の割合は0.00%となっております。

なお、当該株式は、上記「発行済株式」の「単元未満株式」欄に含めております。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】

会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	66	95,370
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式には、2020年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (単元未満株式の売渡請求による売渡)	-	-	-	-
保有自己株式数	66	-	66	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、2020年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りおよび売渡による株式は含まれておりません。

3【配当政策】

当社は、株主の皆様への利益還元を重要な経営課題の一つとして位置付けております。経営基盤の長期の安定化と持続的な成長の実現に向け、業績の推移・財務状況・今後の事業計画・投資計画等を総合的に勘案し、内部留保とのバランスを取りながら、配当性向30%を目処に期末配当として年一回の剰余金配当を行うことを基本方針としております。期末配当の決定機関は株主総会ですが、当社は中間配当を取締役会決議によって行うことができる旨を定款で定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	基準日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
2019年10月15日 取締役会決議	2019年11月15日	72,441	17.00

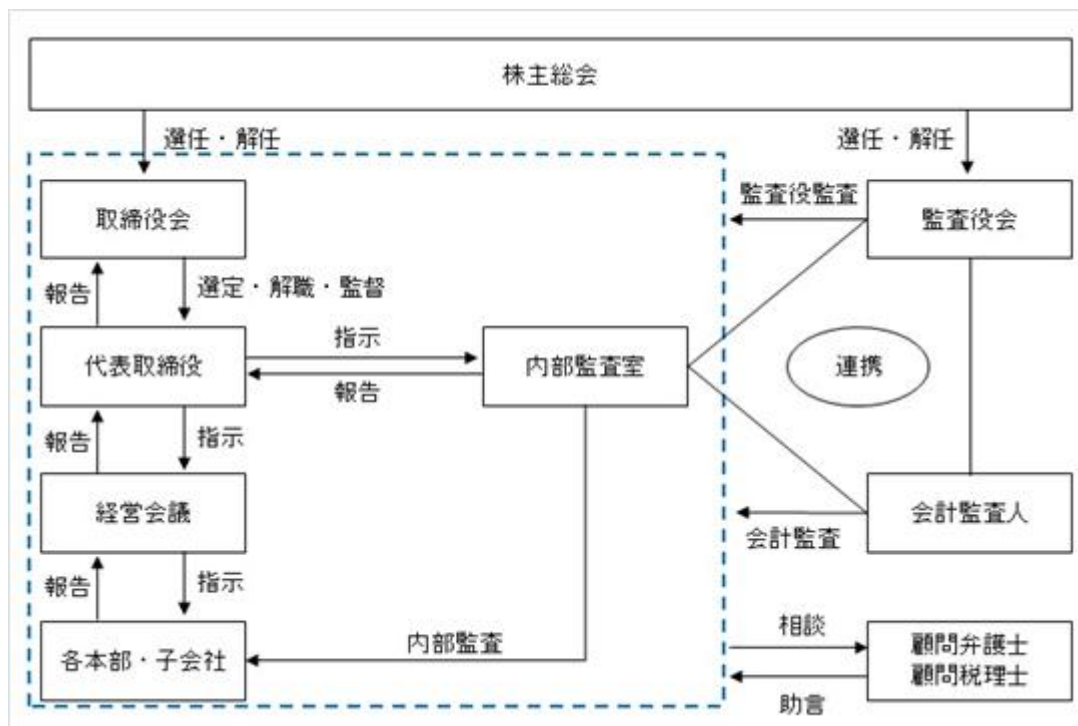
4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、「私たちは、明日の笑顔のため、すべての人に愛と感動と勇気を与えます。使う人が幸せを感じる、また、心が豊かになる製品創りを目指します。」という経営理念に基づいて、企業の社会的責任を果たしながら、株主をはじめとするステークホルダーの立場に立って企業価値の最大化を図ることをコーポレート・ガバナンスの基本的な考え方としております。この方針に基づき、企業の健全性や透明性を確保するため、各ステークホルダーに対し、適切なコミュニケーションを図るとともにコンプライアンスの遵守に努めてまいります。

当社の機関・コーポレート・ガバナンス体制を概略図で示すと次のとおりです。



企業統治体制の状況等

イ．企業統治の体制の概要および当該企業統治の体制を採用する理由

(a) 企業統治の体制の概要

・取締役会

当社の取締役会は取締役4名で構成されており、うち1名が社外取締役であります。取締役会は、当社の業務執行を決定し、取締役の職務の執行を監督する権限を有しております。

取締役会の決議事項については、取締役会付議事項となる重要事項をもれなく取締役会に付議しており、これにより取締役会は会社の業務執行を決定し、取締役の職務の執行を監督する体制を強化しております。

取締役会は毎月1回開催するほか、必要に応じて臨時取締役会を開催しており、取締役会において十分に審議できるよう事前に資料を送付し、本社経営会議において事前審議を行っております。

・監査役会

監査役会は監査役3名（うち社外監査役2名）で構成されており、毎月1回開催しております。各監査役は、取締役会をはじめとする重要な会議に出席して意見を述べる等、コーポレート・ガバナンスの実効性を高めるように努めております。

内部監査室および会計監査人（EY新日本有限責任監査法人）とは、監査の効率化と品質の向上、コーポレート・ガバナンスの充実化を図るため、実施前の監査計画の共有および意見交換、監査実施後の課題・問題点の共有および意見交換、監査往査時の立会等を行っております。

・会計監査人

会計監査人は監査役会および内部監査室と連携を密にし、実効性のある会計監査を行っております。

・経営会議

経営会議は本社経営会議と子会社経営状況報告会から構成されております。本社経営会議は、全取締役、全監査役および執行役員ならびに会議の進行の上必要となる部門長（東莞幸和家庭日用品有限公司を含む）が参加し、月1回開催しております。子会社経営状況報告会は、本社長、副社長、および全本部長ならびに東莞幸和家庭日用品有限公司を除く子会社の社長および監査役が参加し、月1回開催しております。経営会議において、各本部・子会社からの業務執行状況および月次業績の報告と審議をおこなっております。

・コンプライアンス委員会

コンプライアンス委員会は、全常勤取締役および常勤監査役を委員として、2ヶ月に1回開催しており、当社グループ運営に関する倫理やコンプライアンスに照らして問題のある活動には関与しないよう運用するとともに、コンプライアンスに関する研修会をおこなっております。

(b) 当該体制を採用する理由

当社は経営の健全性や透明性および意思決定のスピード化を図るため、上記の企業統治体制を採用しております。

ロ．内部統制システムおよびリスク管理体制の整備の状況

(a) 取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

- ・当社は、取締役、監査役および使用人を対象に「コンプライアンス基本規程」を定め、コンプライアンスを徹底した企業経営を実践しております。
- ・当社は、経営の透明性と健全性の高い企業活動を遂行し、企業ブランド価値をさらに高めることを取締役および使用人に徹底しております。
- ・取締役および使用人が法令違反や企業倫理の逸脱の可能性を感じた場合に対応し、社内通報制度を制定しており、より相談し易い環境を整備しております。

(b) 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

- ・取締役の職務に係る情報は「文書管理規程」等関連規程に従い、適切に保存および管理しております。
- ・取締役会議事録は総務部が全ての議案について作成し、その内容は必要な者のみ閲覧できるようにしております。

(c) 損失の危険に関する規程その他の体制

経営上のリスクが発生した場合は、取締役および当該リスクに係る関係部署が集まり、事実の把握および対応策を検討できる体制にしております。リスクの未然防止および危険や緊急事態の発生時の対応については「コンプライアンス基本規程」「内部監査規程」「リスク管理規程」等の規程に従い運用しております。

・コンプライアンス

当社では取締役、監査役および使用人の責務、禁止事項および通報の義務等を定めた「コンプライアンス基本規程」を取締役会で定めております。

・内部監査室

当社は内部監査部門として内部監査室を設置しており、代表取締役社長直轄の組織として他の業務執行ラインから分離し、独立かつ客観的な立場から当社の健全かつ適切な業務運営に資するために、実効性の高い内部監査の実施に努めております。

(d) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

「組織規程」「職務分掌規程」「稟議規程」等の社内規定において、取締役の基本職務や決裁基準等を定め、効率的に業務を行う体制を整えております。

(e) 当社および子会社からなる企業集団における業務の適正性を確保するための体制

当社は、「関係会社管理規程」に基づき、子会社の業績および業務の進捗を管理することにより、グループ企業における業務の適正性を確保しております。

また、定期的な内部監査室による監査手続きを実施することで、当社企業グループ全体の業務にわたる内部統制の効率性と有効性の確保に努めております。

(f) 監査役が職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

当社は「監査役会規程」を定め、必要に応じて監査役の職務をサポートする使用人を社内の適任者から任命できる体制とし、当社企業グループ全体の情報を収集し、監査役に報告できるようにしております。

(g) 監査役が職務を補助すべき使用人の取締役からの独立性に関する事項

当社は「監査役会規程」を定め、監査役から命令を受けた使用人は、その命令に対して取締役等他の機関・役員から指揮命令を受けない体制としております。

(h) 取締役および使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制

- ・取締役および使用人は、取締役会、その他の会議体への出席を通じて職務の執行状況を監査役に報告するほか、内部監査部門は内部監査結果を監査役に報告しております。
 - ・監査役の求めに応じ、取締役会付議事項または取締役会報告事項となる重要案件について、取締役等より報告を受けられる体制を整備しております。
- (i) その他監査役が監査が実効的に行われることを確保するための体制
- 当社は「監査役会規程」を定め、監査役の監査が実効的に行われることを確保するため以下の体制を整備しております。
- ・代表取締役社長と監査役との間で定期的な意見交換会を開催しております。
 - ・監査役からの求めに応じ、監査役と会計監査人および内部監査部門との間で連絡会を開催しております。
 - ・各種会議への監査役の出席を確保しております。
- (j) 財務報告の適正性を確保するための体制
- ・当社は、代表取締役社長が最高責任者となり、適切な統制環境を保持しつつ、金融商品取引法に規定する財務報告に係る内部統制を整備・運用・評価し、継続的に改善する体制を構築しております。
 - ・適正な内部統制を実現するための体制の構築、運用および評価にあたり、「財務報告に係る内部統制基本方針」を定めるとともに、関連諸規程および関連文書を整備しております。
- (k) 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方およびその整備状況
- 当社は「反社会的勢力対応規程」を制定し、いかなる場合においても反社会的勢力に対し毅然とした姿勢をもって対応し、その不当な要求については関係機関とも連携の上、これに応じないことの徹底を図っております。

「責任限定契約の概要」

当社社外取締役および社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を法令が定める限度まで限定する契約を締結しております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該社外取締役または社外監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意で重大な過失がないときに限られます。

取締役の定数

当社の取締役は10名以内とする旨を定款で定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款で定めております。また、あわせて取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨を定款で定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うことを目的として、会社法第309条第2項に定める特別決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

自己株式の取得

当社は、経営環境に応じた機動的な資本政策の遂行を可能とするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得できる旨を定款に定めております。

責任免除の内容の概要

当社は、会社法第426条第1項の規定に基づき、取締役および監査役が職務の遂行にあたり、その能力を十分に発揮し、期待される役割を果たし得るようになるため、取締役会の決議により、取締役（取締役であったものを含む。）および監査役（監査役であったものを含む。）の責任を法令の限度において、免除できる旨を定款に定めております。

中間配当に関する事項

当社は、株主への機動的な利益還元を可能とするため、会社法第454条第5項の規定に基づき、取締役会の決議によって中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性 6名 女性 1名 (役員のうち女性の比率14.3%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役会長	玉田 栄一	1950年10月1日生	1987年10月 当社設立代表取締役社長就任 2002年5月 幸和(香港)有限公司設立董事就任 2005年5月 取締役会長就任 2010年12月 当社代表取締役会長就任 2017年5月 当社取締役会長就任(現任)	(注)3	264,000
代表取締役社長	玉田 秀明	1978年1月5日生	1996年4月 当社入社 1997年12月 当社取締役就任 2002年5月 幸和(香港)有限公司設立董事兼 総経理就任 2003年1月 当社取締役退任 2005年4月 当社取締役就任 2005年5月 当社代表取締役社長就任(現任) 2011年7月 東莞幸和家庭日用品有限公司設立 監事就任 2019年3月 有限会社パムック(現 株式会社 幸和ライフゼーション)取締役就 任(現任)	(注)3	247,260
取締役	植田 樹	1988年1月24日生	2010年4月 当社入社 2018年6月 当社執行役員営業本部長 2018年11月 株式会社ネクストケア・イノベー ション取締役就任(現任) 2019年10月 当社執行役員経営企画室長 2020年6月 当社取締役就任(現任)	(注)5	-
取締役	藤田 清文	1972年7月21日生	2000年4月 弁護士登録 弁護士法人淀屋橋・山上合同入所 (現任) 2004年6月 金融庁検査局勤務(～2006年6 月) 2006年7月 株式会社フェリシモ社外監査役就 任 2008年3月 日土地アセットマネジメント株式 会社コンプライアンス委員会外部 委員(現任) 2014年5月 株式会社フェリシモ社外取締役就 任(現任) 2016年3月 東洋グリーン株式会社社外取締役 就任(現任) 2016年5月 いちごグリーンインフラ投資法人 監督役員就任(現任) 2017年5月 当社取締役就任(現任)	(注)3	-
常勤監査役	市原 貴	1958年6月24日生	1981年4月 株式会社くずは男山スイミングス クール入社 1989年6月 株式会社ヨシカワランドマーク入 社 2000年5月 有限会社アドフォレスト入社 2006年7月 当社入社 2014年10月 当社営業推進本部商品管理部長 2019年12月 当社内部監査室長就任 2020年5月 当社監査役就任(現任)	(注)4	2,610

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
監査役	三村 淳司	1978年4月28日生	2002年10月 新日本監査法人(現EY新日本有限責任監査法人)入所 2012年2月 三村公認会計士事務所設立所長(現任) 当社監査役就任(現任) 2012年6月 株式会社アジュバンコスメジャパン社外監査役就任 2013年8月 株式会社リライズ・パートナーズ設立代表取締役社長就任(現任) MARCSコーポレートアドバイザー株式会社代表取締役就任(現任) 2015年6月 株式会社アジュバンコスメジャパン社外取締役就任(現任) 東和薬品株式会社社外監査役就任 2017年5月 株式会社エーアイティー社外監査役就任(現任)	(注)4	9,000
監査役	小島 幸保	1972年7月7日生	2000年4月 弁護士登録 西村・笹山・鷹塚法律事務所入所 2005年4月 関西学院大学法学部非常勤講師(現任) 2006年4月 小島法律事務所設立所長弁護士(現任) 2011年4月 吉備国際大学大学院(通信制)知的財産学研究科准教授(現任) 2017年5月 当社監査役就任(現任)	(注)4	-
計					522,870

- (注) 1. 取締役藤田清文は、社外取締役であります。
2. 監査役三村淳司および小島幸保は、社外監査役であります。
3. 2019年5月28日から、2021年2月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
4. 2017年8月4日から、2021年2月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
5. 2020年6月1日から、2022年2月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
6. 代表取締役社長玉田秀明は、取締役会長玉田栄一の長男であります。
7. 当社は、取締役会で決定した会社の方針に基づく業務執行に対し、実務レベルにおける迅速性および機動性の向上を目的とし、2018年3月1日より執行役員制度を導入しております。
8. 「所有株式数」欄には、2020年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの間に変更された事項については含まれておりません。
9. 当社は、法令に定める監査役の数に欠くことになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠監査役1名を選任しております。補欠監査役の略歴は以下のとおりであります。

氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位 (重要な兼職の状況)	所有する当社株式の数
たかもり ひろゆき 高森 裕行 (1965年12月15日生)	1991年4月 竹田廣彦税理士事務所入所 1996年2月 日本振興株式会社入社 1999年10月 ハイテック株式会社入社 2004年11月 ブルーエクスプレス株式会社入社 2006年4月 株式会社かんでんジョイライフ入社 2015年1月 当社入社 2015年3月 当社経営管理部長 2019年10月 当社経営企画室マネージャー 2020年5月 当社内部監査室室長(現任)	10株

社外役員の状況

当社は、社外取締役1名および社外監査役を2名選任しております。社外取締役および社外監査役を選任するための独立性については、専門的な知見に基づく客観的かつ適切な監督または監査といった機能と役割が期待され、一般株主と利益相反が生じるおそれがないことを基本方針とし、経歴および当社との関係を十分に勘案して、個別に判断しております。

社外取締役藤田清文は、他社での社外監査役および社外取締役としての豊富な経験と、弁護士として企業法務および金融関連法務、金融商品取引法関連業務にも精通しており、専門的見地から当社経営全般に対して監督・提言を行うことができると判断し、社外取締役に選任しております。

社外監査役三村淳司は、他社での社外監査役として培われた豊富な経験と高い見識を有し、また、公認会計士および税理士としての豊富な専門知識・経験等も有しており、客観的・中立的な立場で当社経営全般に対して監督・提言を行うことができると判断し、社外監査役に選任しております。

社外監査役小島幸保は、弁護士として契約関係、企業法務全般に精通し、中小企業の法律問題を専門としていることから企業経営への見識や企業運営におけるコンプライアンスに対する識見を有しており、客観的・中立的な立場で当社経営全般に対して監督・提言を行う事ができると判断し、社外監査役に選任しております。なお、社外取締役および社外監査役の兼任状況については、以下のとおりです。

「社外役員の兼任状況」

社外取締役藤田清文は、弁護士法人淀屋橋・山上合同の弁護士であり、また他社における社外取締役を兼任していますが、当社との人的関係、資本的関係または取引関係その他利害関係はなく、一般株主との利益相反が生じるおそれは無いと考えております。

社外監査役三村淳司は、株式会社アジュバンコスメジャパン社外取締役および株式会社エーアイティーの社外監査役であります。なお、株式会社エーアイティーは当社の貿易業務に係る通関業務の一部を受託しておりますが、一般の取引条件と同様であり、取引額は僅少（2020年2月期における当社売上高の0.22%）であります。また、提出日現在同氏は当社の株式9,000株を保有しておりますが、それ以外の人的関係、資本的関係または取引関係その他利害関係はなく、一般株主との利益相反が生じるおそれはないと考えております。

社外監査役小島幸保は、小島法律事務所所長弁護士であります。なお、社外監査役小島幸保および小島法律事務所と当社の間には、人的関係、資本的関係または取引関係その他利害関係はありません。

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携ならびに内部統制部門との関係

社外監査役は内部監査室および会計監査人と定期的な報告会を開催し、相互連携を図っております。内部統制との関係につきましては、取締役会や監査役会等における情報交換および必要に応じてなされる専門的見地に立った助言・指導を通じて、独立した客観的な立場から適切な監督・監視を行うことにより、内部統制の実効性を高める役割を担っております。

(3) 【監査の状況】

内部監査および監査役監査の状況

当社は内部監査部門として、代表取締役社長が直接管掌する組織である内部監査室を設置し、専任の内部監査担当者を1名配置しております。内部監査室は、年度計画に基づき、毎事業年度に一巡するよう当社および当社グループの内部監査を実施し、代表取締役社長、取締役、監査役および監査対象の組織責任者に監査結果を報告するとともに、各部門へ業務改善のためのアドバイスも行っております。

監査役監査は、常勤監査役1名、非常勤の社外監査役2名という構成で行っております。各監査役は原則として毎月1回の監査役会において情報共有を図りながら、取締役会への出席や、経営会議にも出席し、各自の専門知識を生かした監査を行っております。常勤監査役は、各会議体への出席のほか、取締役等から業務執行状況の報告を聴取するとともに重要な決裁書類の閲覧や往査等、取締役の職務執行および意思決定についての適正性を監査しております。

会計監査の状況

当社は、EY新日本有限責任監査法人と監査契約を締結しております。当社の業務を執行した公認会計士の氏名および会計監査業務に係る主な補助者の構成は、以下のとおりであります。なお、継続監査年数については7年以内であります。

業務執行した公認会計士の氏名

指定有限責任社員 業務執行社員 石田 博信
指定有限責任社員 業務執行社員 神前 泰洋

監査業務に係る主な補助者の構成

公認会計士 4名
その他 3名

監査報酬の内容等

「企業内容等の開示に関する内閣府令の一部を改正する内閣府令」（平成31年1月31日 内閣府令第3号）による改正後の「企業内容等の開示に関する内閣府令」第二号様式記載上の注意(56)d(f)iからiiiの規定に経過措置を適用しております。

1. 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	21,000	-	30,000	-
連結子会社	-	-	-	-
計	21,000	-	30,000	-

2. その他重要な報酬の内容

(前連結会計年度)

当社の連結子会社である東莞幸和家庭日用品有限公司は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているErnst & Youngのメンバーファームに対して監査証明業務に基づく報酬として5,507千円を支払っております。

(当連結会計年度)

当社の連結子会社である東莞幸和家庭日用品有限公司は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているErnst & Youngのメンバーファームに対して監査証明業務に基づく報酬として5,491千円、J-SOX支援の非監査業務に基づく報酬として2,209千円を支払っております。

3. 監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

4. 監査報酬の決定方針

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針としましては、監査法人が策定した監査計画、監査内容、監査日数等に基づいた見積金額の提示を受け、双方で内容が妥当であることを確認した上で、監査報酬を決定しております。

5. 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

取締役会が提案した会計監査人に対する報酬等に対して、当社の監査役会が会社法第399条第1項の同意をした理由は、監査範囲および監査日数等より監査費用が合理的かつ妥当であることを確認したためです。

(4) 【役員の報酬等】

役員報酬等

イ. 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額および対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額(千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる役員の員数(人)
		固定報酬	業績連動報酬	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	45,983	45,983	-	-	5
監査役 (社外監査役を除く。)	7,764	7,764	-	-	2
社外取締役	2,646	2,646	-	-	1
社外監査役	5,859	5,859	-	-	2

(注) 1. 取締役の報酬限度額は、2014年11月25日開催の臨時株主総会にて年額300,000千円以内とすることを決議しております。

2. 監査役の報酬限度額は、2014年11月25日開催の臨時株主総会にて年額30,000千円以内とすることを決議しております。

3. 上記には2019年5月28日付にて退任した監査役1名および2019年10月31日付にて退任した取締役1名を含めております。

ロ. 提出会社の役員ごとの報酬等の総額等

報酬等の総額が1億円以上であるものが存在しないため、記載しておりません。

ハ. 使用人兼務取締役の使用人分給与のうち重要なもの

使用人兼務取締役が存在しないため、記載しておりません。

ニ. 役員の報酬等の額またはその算定方法の決定に関する方針の内容および決定方法

当社の役員報酬等の額またはその算定方法の決定に関する方針は、株主総会の決議により取締役および監査役それぞれの報酬等の額を決定し、各取締役の報酬については取締役会の決議、各監査役の報酬については監査役会の決議にて決定されております。

(5) 【株式の保有状況】

1. 投資株式の区分の基準および考え方

当社は、保有目的が純投資目的である株式投資と純投資目的以外の目的である投資株式について、以下のとおり区分して管理しています。

保有目的が純投資目的である株式

当社は、子会社株式を除く保有株式のうち、価値の変動または株式に係る配当によって利益を受けることを目的とした株式を「保有目的が純投資目的である投資株式」として区分しております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

当社および一部の国内連結子会社は、投資先企業との取引関係等の強化を図り、当社グループの企業価値を高めることを目的とした株式を「保有目的が純投資目的以外である投資株式」として区分しております。

2. 株式の保有状況

当社および一部の国内連結子会社のうち、投資株式の貸借対照表計上額（投資株式計上額）が最も大きい会社（最大保有会社）である当社の保有状況は以下のとおりであります。

a. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

イ. 保有方針および保有の合理性を検証する方法ならびに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は、取引先との長期的な取引関係の維持および強化を目的として上場株式を保有しております。政策保有株式については、対象企業との情報共有等から得られるシナジー効果を慎重に検討したうえで保有することを基本方針としております。

ロ. 銘柄数および貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)
非上場株式	-	-
非上場株式以外の株式	1	5,057

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(千円)	株式数の増加の理由
非上場株式	-	-	-
非上場株式以外の株式	-	-	-

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(千円)
非上場株式	-	-
非上場株式以外の株式	-	-

ハ. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額および保有目的
特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)		
株式会社エンチャー	5,108	4,455	企業間取引の維持・強化のため	無
	5,057	4,052		

b. 保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度および当事業年度における貸借対照表計上額の合計額ならびに当事業年度における受取配当金、売却損益および評価損益の合計額

区分	当事業年度		前事業年度	
	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)
非上場株式	1	20,315	1	100,350

区分	当事業年度		
	受取配当金の 合計額(千円)	売却損益の 合計額(千円)	評価損益の 合計額(千円)
非上場株式	-	-	(注)1、2(80,034)

(注)1.非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「評価損益の合計額」は記載しておりません。
2.「評価損益の合計額」の()は外書きで、当事業年度の減損処理額であります。

c.保有目的を変更した投資株式
該当事項はありません。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。
- また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2019年3月1日から2020年2月29日まで)の連結財務諸表および事業年度(2019年3月1日から2020年2月29日まで)の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、また、会計基準等の変更等についての的確に対応して財務諸表を適切に作成できる体制を整備するために、公益財団法人財務会計基準機構に加入し、監査法人等が主催するセミナーへの参加および財務・会計の専門書の購読等を行っております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当連結会計年度 (2020年2月29日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,423,811	2,639,163
受取手形及び売掛金	568,701	894,257
商品及び製品	590,354	661,571
仕掛品	52,646	53,493
原材料及び貯蔵品	51,085	44,283
その他	328,060	52,901
貸倒引当金	81	2,942
流動資産合計	4,014,577	4,342,727
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	101,989	354,997
機械装置及び運搬具(純額)	8,695	7,774
土地	203,030	641,388
リース資産(純額)	14,823	10,371
使用権資産(純額)	-	530,926
その他(純額)	69,338	65,765
有形固定資産合計	1,397,878	1,611,224
無形固定資産		
リース資産	88,814	58,812
のれん	-	69,312
その他	35,661	65,598
無形固定資産合計	124,476	193,722
投資その他の資産		
投資有価証券	104,402	27,352
繰延税金資産	8,865	50,204
その他	67,253	85,158
貸倒引当金	1	-
投資その他の資産合計	180,520	162,715
固定資産合計	702,875	1,967,662
資産合計	4,717,452	6,310,390

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当連結会計年度 (2020年2月29日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	608,771	537,059
1年内返済予定の長期借入金	405,776	659,090
リース債務	33,151	100,742
未払金	322,157	433,025
未払法人税等	5,864	38,723
賞与引当金	54,957	40,874
返品調整引当金	9,932	39,088
資産除去債務	-	5,003
その他	58,431	128,891
流動負債合計	1,499,041	1,982,498
固定負債		
長期借入金	1,838,411	2,916,463
リース債務	69,136	528,344
資産除去債務	5,650	5,650
退職給付に係る負債	840	10,373
その他	32,611	23,286
固定負債合計	1,946,650	3,484,118
負債合計	3,445,692	5,466,616
純資産の部		
株主資本		
資本金	535,252	561,660
資本剰余金	461,622	488,031
利益剰余金	204,487	235,280
自己株式	-	95
株主資本合計	1,201,363	814,315
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	19	211
為替換算調整勘定	27,066	907
その他の包括利益累計額合計	27,047	1,119
非支配株主持分	43,349	28,338
純資産合計	1,271,760	843,773
負債純資産合計	4,717,452	6,310,390

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
売上高	4,526,297	5,992,157
売上原価	6,243,036	6,319,693
売上総利益	2,088,261	2,800,463
返品調整引当金戻入額	5,409	9,932
返品調整引当金繰入額	9,932	39,088
差引売上総利益	2,083,738	2,771,307
販売費及び一般管理費	1,223,562	1,290,618
営業損失()	272,882	131,310
営業外収益		
受取利息	2,406	1,648
受取配当金	79	111
受取手数料	1,122	2,857
為替差益	12,707	9,809
賃貸収入	2,160	19,107
補助金収入	13,458	36,921
受取保険金	2,502	30,000
その他	5,381	11,045
営業外収益合計	39,816	111,501
営業外費用		
支払利息	9,341	47,909
売上割引	16,580	13,703
賃貸費用	-	13,820
株式交付費	759	551
和解金	-	9,500
その他	2,452	5,358
営業外費用合計	29,134	90,843
経常損失()	262,200	110,653
特別利益		
固定資産売却益	3 -	3 16,377
投資有価証券売却益	15,759	-
負ののれん発生益	-	33,179
特別利益合計	15,759	49,556
特別損失		
固定資産除却損	5 1,571	5 594
固定資産売却損	4 -	4 48
製品自主回収関連費用	62,716	-
投資有価証券評価損	-	80,034
減損損失	-	7 207,970
その他	-	6,856
特別損失合計	64,287	295,504
税金等調整前当期純損失()	310,728	356,601
法人税、住民税及び事業税	4,808	39,577
法人税等調整額	47,782	13,840
法人税等合計	52,590	25,736
当期純損失()	363,319	382,338
非支配株主に帰属する当期純損失()	5,160	15,010
親会社株主に帰属する当期純損失()	358,158	367,327

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
当期純損失()	363,319	382,338
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	80	231
為替換算調整勘定	63,132	26,159
その他の包括利益合計	63,051	25,928
包括利益	426,370	408,266
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	421,210	393,255
非支配株主に係る包括利益	5,160	15,010

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2018年3月1日 至 2019年2月28日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	484,213	410,583	671,416	-	1,566,213
当期変動額					
新株の発行	51,039	51,039			102,078
剰余金の配当			108,770		108,770
親会社株主に帰属する 当期純損失（ ）			358,158		358,158
自己株式の取得				-	-
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	51,039	51,039	466,929	-	364,850
当期末残高	535,252	461,622	204,487	-	1,201,363

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価 差額金	為替換算 調整勘定	その他の包括 利益累計額合計		
当期首残高	99	90,199	90,099	-	1,656,313
当期変動額					
新株の発行					102,078
剰余金の配当					108,770
親会社株主に帰属する 当期純損失（ ）					358,158
自己株式の取得					-
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	80	63,132	63,051	43,349	19,702
当期変動額合計	80	63,132	63,051	43,349	384,552
当期末残高	19	27,066	27,047	43,349	1,271,760

当連結会計年度（自 2019年3月1日 至 2020年2月29日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	535,252	461,622	204,487	-	1,201,363
当期変動額					
新株の発行	26,408	26,408			52,816
剰余金の配当			72,441		72,441
親会社株主に帰属する 当期純損失（ ）			367,327		367,327
自己株式の取得				95	95
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	26,408	26,408	439,768	95	387,047
当期末残高	561,660	488,031	235,280	95	814,315

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価 差額金	為替換算 調整勘定	その他の包括 利益累計額合計		
当期首残高	19	27,066	27,047	43,349	1,271,760
当期変動額					
新株の発行					52,816
剰余金の配当					72,441
親会社株主に帰属する 当期純損失（ ）					367,327
自己株式の取得					95
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	231	26,159	25,928	15,010	40,938
当期変動額合計	231	26,159	25,928	15,010	427,986
当期末残高	211	907	1,119	28,338	843,773

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純損失()	310,728	356,601
減価償却費	86,989	211,033
のれん償却額	-	36,169
負ののれん発生益	-	33,179
投資有価証券評価損益(は益)	-	80,034
減損損失	-	207,970
貸倒引当金の増減額(は減少)	9	5,302
返品調整引当金の増減額(は減少)	4,522	29,156
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	840	607
賞与引当金の増減額(は減少)	3,001	16,612
受取利息及び受取配当金	2,485	1,760
支払利息	9,341	47,909
株式交付費	759	551
製品自主回収関連費用	62,716	-
固定資産除売却損益(は益)	1,571	15,734
投資有価証券売却損益(は益)	15,759	-
売上債権の増減額(は増加)	116,064	163,865
たな卸資産の増減額(は増加)	3,576	29,137
仕入債務の増減額(は減少)	49,807	101,406
未払消費税等の増減額(は減少)	47,468	87,668
その他	43,269	109,610
小計	86,533	144,170
利息及び配当金の受取額	2,485	1,760
利息の支払額	9,413	47,681
法人税等の還付額	-	21,282
法人税等の支払額	121,855	2,367
営業活動によるキャッシュ・フロー	215,316	117,165
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	6,000	3,500
定期預金の払戻による収入	36,000	21,000
貸付けによる支出	40,000	-
従業員に対する貸付けによる支出	7,469	6,435
従業員に対する貸付金の回収による収入	-	2,296
有形固定資産の取得による支出	76,709	157,700
有形固定資産の売却による収入	2,647	30,492
無形固定資産の取得による支出	14,056	5,981
投資有価証券の取得による支出	101,015	677
投資有価証券の売却による収入	15,759	-
会社分割による前払支出	178,000	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	² 137,033
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	-	² 1,087
その他	547	375
投資活動によるキャッシュ・フロー	368,296	256,826

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	-	13,015
長期借入れによる収入	1,800,000	1,440,000
長期借入金の返済による支出	339,125	925,130
非支配株主からの払込みによる収入	43,560	-
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の売却による収入	4,950	-
株式の発行による収入	101,318	52,265
リース債務の返済による支出	31,875	98,085
自己株式の取得による支出	-	95
配当金の支払額	108,770	72,441
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,470,057	383,497
現金及び現金同等物に係る換算差額	34,032	13,984
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	852,411	229,851
現金及び現金同等物の期首残高	1,556,899	2,409,311
現金及び現金同等物の期末残高	1 2,409,311	1 2,639,163

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 5社

主要な連結子会社の名称

東莞幸和家庭日用品有限公司

株式会社ネクストケア・イノベーション

株式会社幸和ライフゼーション

株式会社シクロケア

当連結会計年度より、有限会社パムック、株式会社あつぷるおよび株式会社シクロケアを株式の取得により子会社化したため、連結の範囲に含めております。

なお、有限会社パムックは2019年9月27日付で株式会社幸和ライフゼーションに商号変更を行っており、また株式会社あつぷるは2019年10月1日付で株式会社幸和ライフゼーションによる吸収合併により消滅しております。

2. 持分法に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は12月31日であります。連結財務諸表の作成に当たっては、同決算日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

また、当連結会計年度より、従来2月決算であった株式会社シクロケアは、決算日を2月末日から12月31日に変更しました。これにより、当連結会計年度は、株式を取得した2019年3月1日から2019年12月31日までの10ヶ月間を連結対象期間としております。

なお、従来5月決算であった株式会社幸和ライフゼーションについても、株式会社シクロケアと同様に、決算日を5月末日から12月31日に変更しております。これにより、当連結会計年度は、株式を取得した2019年3月1日から2019年12月31日までの10ヶ月間を連結対象期間としております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準および評価方法

イ 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

ロ デリバティブ

時価法を採用しております。

ハ たな卸資産

主として移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ 有形固定資産（リース資産を除く）

当社および一部の国内連結子会社は、定率法を採用しております。

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）および2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については定額法によっております。

また、その他の国内連結子会社、在外連結子会社については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	8～39年
機械装置及び運搬具	4～10年
工具、器具及び備品	2～15年

使用権資産については、定額法を採用しております。

ロ 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内おける利用可能期間（5年）に基づいております。

ハ リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な繰延資産の処理方法

株式交付費

発生時に全額費用処理しております。

(4) 重要な引当金の計上基準

イ 貸倒引当金

債権の貸し倒れによる損失に備えるため、当社および一部の国内連結子会社は、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

また、在外連結子会社は主として特定の債権について回収不能見込額を計上しております。

ロ 返品調整引当金

当社および一部の国内連結子会社は、将来に予想される返品に備えるため、過去の返品実績率等により返品の可能性を検討し、返品見込額を計上しております。

ハ 賞与引当金

当社および国内連結子会社は、従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額の当連結会計年度負担額を計上しております。

(5) 退職給付に係る会計処理の方法

当社および一部の国内連結子会社は、退職給付に係る負債および退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(6) 重要な外貨建の資産または負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産および負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益および費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。

(7) 重要なヘッジ会計の方法

イ ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。

なお、為替予約については、振当処理の要件を満たしている場合には振当処理を採用し、特例処理の案件を満たしている金利スワップについては、特例処理を採用しております。

ロ ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段...為替予約取引、金利スワップ取引

ヘッジ対象...外貨建債務および予定取引

ハ ヘッジ方針

外貨建取引に係るヘッジ取引は、デリバティブ管理規定に基づき、為替変動にともなうキャッシュ・フロー変動リスクのヘッジを目的として行っております。

金利スワップは、金利変動リスクを回避する目的で行っております。

二 ヘッジの有効性評価の方法

外貨建予定取引については、当該取引の実効可能性が過去の取引実績および予算等から総合的に判断して極めて高いことを確認することで、有効性の評価としております。

特例処理によっている金利スワップは、有効性の判定を省略しております。

(8) のれんの償却方法および償却期間

のれんの償却については、5年間の均等償却を行っております。ただし、その効果の発現する期間の見積りが可能な場合には、その見積期間で均等償却し、僅少なものについては、一括償却していません。

(9) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金および取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ価値の変動について僅少なりリスクしか負わない短期的な投資としております。

(10) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

在外連結子会社において、当連結会計年度の期首よりIFRS第16号「リース」を適用しております。

これにともない、借手のリース取引については、原則としてすべてのリースについて使用権資産およびリース債務を認識するとともに、使用権資産の減価償却費とリース債務に係る支払利息を計上しております。本基準の適用にあたっては、経過措置として認められている、本基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しております。また、使用権資産の測定方法はリース債務の測定額に前払および未払リース料を調整する方法を採用しております。

この結果、当連結会計年度末の連結貸借対照表上、使用権資産（純額）が530,926千円、流動負債のリース債務が64,177千円、固定負債のリース債務が484,966千円、それぞれ増加しております。

なお、従来の方によった場合と比較して、当連結会計年度の売上総利益7,596千円、経常利益16,350千円、税引前利益16,350千円、当期純利益11,765千円それぞれ減少し、営業利益が9,475千円増加しております。

また、これにより、当連結会計年度の1株当たり純資産は2円75銭減少し、1株当たり当期純損失は2円77銭増加しております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

2023年2月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(表示方法の変更)

(連結貸借対照表)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当連結会計年度の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(連結損益計算書)

前連結会計年度において、「営業外損益」の「その他」に含めていた「受取保険金」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替を行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた7,883千円は、「受取保険料」2,502千円、「その他」5,381千円として組替えております。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症の拡大にともない、現状では正確な数値を予測するのは困難な状況が続いておりますが、翌連結会計年度については、売上高の減少等の影響が上期まで見込まれるものの、下期以降は徐々に回復し、推移していくものと見込んでおります。

当社グループは、有形固定資産の減損評価、繰延税金資産の回収可能性に関する評価等は、連結財務諸表作成時点で入手可能な情報・事実に基づき、合理的な見積もりを行っております。ただし、将来の不確実性により、最善の見積もりを行った結果として見積もられた金額と事後的な結果との間に乖離が生じる可能性があります。

(連結貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当連結会計年度 (2020年2月29日)
有形固定資産の減価償却累計額	467,715千円	738,992千円

2 コミットメントライン契約

当社は、運転資金の機動的かつ安定的な調達を可能にするため、2016年2月29日付にて取引銀行2行と契約開始日を2016年3月3日とするコミットメントライン契約を締結しておりましたが、当連結会計年度において、財務制限条項に抵触したことにより2020年2月28日を以て契約は終了いたしました。なお、借入実行残高はありません。

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当連結会計年度 (2020年2月29日)
コミットメントラインの総額	500,000千円	- 千円
借入実行残高	-	-
差引額	500,000	-

3 財務制限条項

当社のコミットメントライン契約には、純資産と利益について以下の条件の財務制限条項が付されております。

単体の貸借対照表における純資産の部の金額を、当該決算期の直前の決算期の末日または2015年2月に終了する決算期の末日における単体の貸借対照表における純資産の部の金額のいずれか大きい方の75%以上にそれぞれ維持すること。

本契約締結日またはそれ以降に終了する各年度の決算期に係る単体の損益計算書上の経常損益に関して、それぞれ2期連続して経常損失を計上しないこと。

なお、当連結会計年度において、財務制限条項に抵触したことにより2020年2月28日を以て契約は終了しております。

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目および金額は次のとおりです。

	前連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
従業員給料および手当	678,692千円	927,415千円
賞与引当金繰入額	54,957	43,598
退職給付費用	16,668	45,794
運賃	200,953	277,230
物流委託費	257,363	259,423
試験研究費	59,281	45,783

2 一般管理費に含まれる研究開発費の総額は次のとおりです。

	前連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
研究開発費	238,962千円	241,227千円

販売費及び一般管理費のうち、試験研究費として表示しているものは、主に研究開発用のサンプル購入費および開発委託費であり、人件費等については、従業員給料および手当等の費目に含まれております。

3 固定資産売却益の内容は次のとおりです。

	前連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
工具、器具及び備品	- 千円	15,963千円
機械装置及び運搬具	-	414
計	-	16,377

4 固定資産売却損の内容は次のとおりです。

	前連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
建物	- 千円	48千円
計	-	48

5 固定資産除却損の内容は次のとおりです。

	前連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
建物	0千円	- 千円
その他	1,571	594
計	1,571	594

6 期末たな卸高は収益性の低下にともなう簿価切下後の金額であり、次の棚卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
	12,416千円	27,281千円

7 減損損失

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類	減損損失 (千円)
東京都江戸川区	事業用資産	建物	36,903
		機械装置及び運搬具	3,718
		リース資産(有形固定資産)	12,174
		その他(有形固定資産)	44,962
		その他(無形固定資産)	1,285
	-	のれん	106,765
東京都港区	遊休資産	その他(無形固定資産)	2,160

当社グループは、原則として、事業会社ごとを1つの資産グループとしてグルーピングしております。

当連結会計年度において、当社の連結子会社である株式会社幸和ライフゼーションの事業計画に対する進捗状況や今後の業績見通しを踏まえて検討した結果、将来キャッシュ・フローが見込まれないことから、資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額205,810千円を減損損失として計上いたしました。なお、当該資産グループの回収可能価額は、正味売却価額により測定しております。

また、当社において、今後利用する予定のないソフトウェアについて、減損損失2,160千円を計上いたしました。

回収可能価額を正味売却価額により測定している場合には、不動産鑑定評価額に基づき算定しております。また、使用価値により測定している場合には、使用価値を零として算定しております。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額

	前連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	80千円	324千円
組替調整額	-	-
計	80	324
為替換算調整勘定：		
当期発生額	38,922	26,862
組替調整額	-	-
計	38,922	26,862
税効果調整前合計	38,842	26,538
税効果額	24,209	609
その他の包括利益合計	63,051	25,928

2 その他の包括利益に係る税効果額

	前連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
その他有価証券評価差額金：		
税効果調整前	80千円	324千円
税効果額	-	93
税効果調整後	80	231
為替換算調整勘定：		
税効果調整前	38,922	26,862
税効果額	24,209	703
税効果調整後	63,132	26,159
その他の包括利益合計		
税効果調整前	38,842	26,538
税効果額	24,209	609
税効果調整後	63,051	25,928

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)

1. 発行済株式に関する事項

	当連結会計年度期首株式数(株)	当連結会計年度増加株式数(株)	当連結会計年度減少株式数(株)	当連結会計年度末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	1,324,210	2,862,050	-	4,186,260
合計	1,324,210	2,862,050	-	4,186,260

(注) 普通株式の発行済株式数の増加2,862,050株は、株式分割による増加2,648,420株、新株予約権(ストックオプション)の権利行使による増加213,630株であります。

2. 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3. 新株予約権および自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2018年5月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	108,770千円	82円14銭	2018年 2月28日	2018年 5月30日

(注) 当社は、2018年1月18日開催の取締役会決議により、2018年3月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行う旨を決議しておりますが、上記の1株当たり配当額は当該株式分割前の金額を記載しております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が当連結会計年度末後となるもの

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)

1. 発行済株式の種類および総数ならびに自己株式の種類および株式数に関する事項

	当連結会計年度期首株式数(株)	当連結会計年度増加株式数(株)	当連結会計年度減少株式数(株)	当連結会計年度末株式数(株)
発行済株式				
普通株式 (注)1	4,186,260	96,030	-	4,282,290
合計	4,186,260	96,030	-	4,282,290
自己株式				
普通株式 (注)2	-	66	-	66
合計	-	66	-	66

(注) 1. 普通株式の発行済株式数の増加96,030株は、新株予約権(ストックオプション)の権利行使による増加であります。

2. 普通株式の自己株式数の増加66株は、単元未満株式の買取による増加66株であります。

2. 新株予約権および自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の 種類	配当の原資	配当金の 総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
2019年10月15日 取締役会	普通株式	利益剰余金	72,441千円	17円00銭	2019年 8月31日	2019年 11月15日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が当連結会計年度末後となるもの
該当事項はありません。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
現金及び預金勘定	2,423,811千円	2,639,163千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	14,500	-
現金及び現金同等物	2,409,311	2,639,163

2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産および負債の主な内訳

前連結会計年度(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)

株式の取得により新たに有限会社パムック(現株式会社幸和ライフゼーション)を連結したことに伴う連結開始時の資産および負債の内訳ならびに株式の取得価額と取得のための支出(純額)との関係は次のとおりであります。

流動資産	231,532千円
固定資産	561,464千円
のれん	85,323千円
評価差額	42,834千円
流動負債	234,651千円
固定負債	627,502千円
株式の取得価額	59,000千円
現金及び現金同等物	55,193千円
差引:取得のための支出	3,806千円

株式の取得により新たに株式会社あつがる(現株式会社幸和ライフゼーション)を連結したことに伴う連結開始時の資産および負債の内訳ならびに株式の取得価額と取得のための支出(純額)との関係は次のとおりであります。

流動資産	20,098千円
固定資産	7,582千円
のれん	40,283千円
流動負債	13,659千円
固定負債	54,304千円
株式の取得価額	0千円
現金及び現金同等物	1,087千円
差引:取得による収入	1,087千円

株式の取得により新たに株式会社シクロケアを連結したことに伴う連結開始時の資産および負債の内訳ならびに株式の取得価額と取得のための支出(純額)との関係は次のとおりであります。

流動資産	108,983千円
固定資産	133,572千円
流動負債	27,575千円
固定負債	23,369千円
負ののれん発生益	33,179千円
評価差額	8,432千円
株式の取得価額	150,000千円
現金及び現金同等物	16,773千円
差引:取得のための支出	133,226千円

3 吸収分割による事業承継により引き継いだ資産および負債の主な内訳

前連結会計年度（自 2018年3月1日 至 2019年2月28日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2019年3月1日 至 2020年2月29日）

吸収分割により株式会社ネクストから引き継いだ資産および負債の内訳ならびに会社分割の対価と会社分割による支出（純額）との関係は次のとおりであります。

流動資産	- 千円
固定資産	193,967千円
流動負債	- 千円
固定負債	15,967千円
会社分割の対価	178,000千円
前連結会計年度における会社分割による前払支出	178,000千円
差引：会社分割による支出	- 千円

（リース取引関係）

（借主側）

1．ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主に当社のホストコンピュータおよびコンピュータ端末機（工具、器具及び備品）であります。

無形固定資産

主に当社の販売管理システムおよび会計・人事給与システム（ソフトウェア）であります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4．会計方針に関する事項（2）重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2．オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当連結会計年度 (2020年2月29日)
1年内	969	13,370
1年超	826	29,831
合計	1,795	43,201

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、事業計画に基づく設備投資計画に照らして、必要な資金を銀行等金融機関からの借入れにより調達しております。デリバティブについては、営業債務に係る為替変動リスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容およびそのリスク

営業債権である受取手形および売掛金は、取引先の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、業務上の関係を有する企業に関連する株式等であり、当該取引先の業績変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形、買掛金および未払金は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。

長期借入金およびファイナンス・リース取引に係るリース債務は、運転資金の調達および設備投資を目的としたものであり、返済期日は決算日後、最長で26年7ヶ月後であります。

デリバティブ取引は、為替予約および金利スワップであります。金利スワップについては、変動金利による資金調達の支払利息を固定化することにより、金利変動リスクをヘッジする取引を行っております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行に係るリスク)の管理

当社グループは、与信管理規程に従い、営業債権について債権管理担当が主要な取引先の状況をモニタリングし、取引先ごとに残高および期日管理を行うとともに、財務状況等の悪化による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。また、外貨建て債務に係る為替変動リスクは、当社の内規であるデリバティブ管理規程に基づき為替予約を行う体制としております。

市場リスク管理

投資有価証券については、取引先企業との関係を勘案し、保有状況を継続的に検討、見直しております。

為替変動リスクについては、輸入取引などに付随し、外国通貨での取引を行っており、これらの為替変動リスクを軽減するため、為替予約等のデリバティブ取引を行っております。

また、長期借入金に係る支払金利の変動リスクに対して金利スワップ取引を実施して支払利息の固定化を実施しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払を実行できなくなるリスク)の管理

当社グループは、社内の各部署からの情報に基づき財務担当が適時に資金計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持等により流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価格の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度（2019年2月28日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	2,423,811	2,423,811	-
(2) 受取手形及び売掛金	568,701	568,701	-
(3) 投資有価証券	4,052	4,052	-
資産計	2,996,565	2,996,565	-
(1) 支払手形及び買掛金	608,771	608,771	-
(2) 未払金	322,157	322,157	-
(3) 長期借入金(*)	2,244,187	2,249,538	5,351
負債計	3,175,115	3,180,466	5,351

(*) 長期借入金には、1年以内返済予定の長期借入金が含まれております。

当連結会計年度（2020年2月29日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	2,639,163	2,639,163	-
(2) 受取手形及び売掛金	894,257	894,257	-
(3) 投資有価証券	5,057	5,057	-
資産計	3,538,478	3,538,478	-
(1) 支払手形及び買掛金	537,059	537,059	-
(2) 未払金	433,025	433,025	-
(3) 長期借入金(1)	3,575,553	3,582,965	7,412
(4) リース債務(2)	629,087	628,976	110
負債計	5,174,725	5,182,027	7,302

(1) 長期借入金には、1年内返済予定の長期借入金が含まれております。

(2) リース債務には、1年内返済予定のリース債務が含まれております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法ならびに有価証券およびデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価については、取引所の価格によっております。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 未払金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 長期借入金

変動金利によるものについては、短期間で市場金利を反映し、また、当社の信用状態は実行後と大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。なお、金利スワップの特例処理の対象であるものは、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割引いて算定する方法によっております。

固定金利によるものは、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割引いて現在価値により算定してしております。

(4) リース債務

リース債務の時価については、元利金の合計額を同様の新規リースを行った場合に想定される利率で割引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」注記をご参照ください。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当連結会計年度 (2020年2月29日)
非上場株式	100,350	22,295
出資金	-	1,750

非上場株式は、市場価格がなく、かつ、将来キャッシュフローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「投資有価証券」には含めておりません。

出資金についても、市場価格がなく、かつ、将来キャッシュフローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表に記載しておりません。

3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2019年2月28日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	2,423,811	-	-	-
受取手形及び売掛金	568,701	-	-	-
合計	2,992,512	-	-	-

当連結会計年度(2020年2月29日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	2,639,163	-	-	-
受取手形及び売掛金	894,257	-	-	-
合計	3,533,420	-	-	-

4. 借入金およびリース債務の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(2019年2月28日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	405,776	368,450	326,420	307,186	278,536	557,819
リース債務	33,151	33,391	33,754	1,387	603	-
合計	438,927	401,841	360,174	308,573	279,139	557,819

当連結会計年度（2020年2月29日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	659,090	683,540	545,077	506,408	406,086	775,352
リース債務	100,742	106,409	83,486	85,964	88,103	164,380
合計	759,832	789,949	628,563	592,372	494,189	939,732

（有価証券関係）

1. その他の有価証券

前連結会計年度（2019年2月28日）

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの 株式	-	-	-
小計	-	-	-
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの 株式	104,402	104,421	19
小計	104,402	104,421	19
合計	104,402	104,421	19

当連結会計年度（2020年2月29日）

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの 株式	5,057	4,752	305
小計	5,057	4,752	305
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの 株式	22,295	102,330	80,034
小計	22,295	102,330	80,034
合計	27,352	107,082	79,729

2. 連結会計年度中に売却したその他の有価証券

前連結会計年度（自 2018年3月1日 至 2019年2月28日）

区分	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式	15,759	15,759	-
合計	15,759	15,759	-

当連結会計年度（自 2019年3月1日 至 2020年2月29日）

該当事項はありません。

3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度（自 2018年3月1日 至 2019年2月28日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2019年3月1日 至 2020年2月29日）

当連結会計年度において、その他有価証券の非上場株式について80,034千円の減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券については、発行会社の財政状態の悪化により実質価額が取得価額に比べて50%以上下落した場合には、著しく低下したものとし、回復可能性が十分な証拠により裏付けられる場合を除き、減損処理を行っております。

（デリバティブ取引関係）

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

前連結会計年度（2019年2月28日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（2020年2月29日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (千円)	契約額等のうち 1年超 (千円)	時価 (千円)
金利スワップの特例 処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	57,511	35,015	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は退職金規程に基づく確定給付型の退職一時金および確定拠出型年金制度を採用しております。

なお、退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債および退職給付費用を計算しております。

また、一部の国内連結子会社において、退職金規定に基づく確定給付型の退職一時金制度および中小企業退職金共済制度を採用しております。退職一時金制度は、当社と同じ簡便法により退職給付に係る負債および退職給付費用を計算しております。

2. 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
退職給付に係る負債の期首残高	- 千円	840千円
退職給付費用	960千円	1,542千円
退職給付の支払額	120千円	2,149千円
新規連結による増加(注)	- 千円	10,140千円
退職給付に係る負債の期末残高	840千円	10,373千円

(注) 当連結会計年度 株式会社シクロケアを新たに連結の範囲に含めたことによる増加であります。

(2) 退職給付債務の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当連結会計年度 (2020年2月29日)
非積立型制度の退職給付債務	840千円	10,373千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	840千円	10,373千円
退職給付に係る負債	840千円	10,373千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	840千円	10,373千円

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用

前連結会計年度	960千円
当連結会計年度	1,542千円

3. 確定拠出制度

確定拠出制度への要拠出額

前連結会計年度	15,708千円
当連結会計年度	15,886千円

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションに係る費用計上額および科目名

ストック・オプションの付与時において、当社は未公開企業であり、ストック・オプション等の単位当たりの本源的価値は0円であるため、費用計上は行っておりません。

2. スtock・オプションの内容、規模およびその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	第1回 新株予約権	第2回 新株予約権	第3回 新株予約権	第4回 新株予約権	第5回 新株予約権
付与対象者の区分および人数	当社取締役 4名 当社従業員 1名	当社取締役 4名 当社従業員 1名	当社取締役 4名 当社従業員 89名	当社取締役 4名 当社監査役 2名 当社従業員 18名 外部協力者 1名	当社従業員 3名
株式の種類別のストック・オプションの数(注)	普通株式 90,000株	普通株式 51,000株	普通株式 342,600株	普通株式 144,000株	普通株式 19,500株
付与日	2011年6月30日	2011年10月7日	2015年2月27日	2016年1月15日	2017年2月1日
権利確定条件	新株予約権者は、その権利行使時においても、当社または当社の子会社の取締役、監査役または従業員の地位にあることを要するものとする。	同左	新株予約権者は、その権利行使時においても、当社または当社の子会社の取締役、または従業員の地位にあることを要するものとする。	新株予約権者は、その権利行使時においても、当社または当社の子会社の取締役、監査役または従業員の地位にあること、もしくは当社が認めた外部協力者であることを要するものとする。	新株予約権者は、その権利行使時においても、当社または当社の子会社の取締役、または従業員の地位にあることを要するものとする。
対象勤務期間	対象期間の定めはありません。	同左	同左	同左	同左
権利行使期間	自2013年6月21日 至2021年6月17日	自2013年10月1日 至2021年9月28日	自2017年3月1日 至2025年2月23日	自2018年1月16日 至2025年12月24日	自2019年2月2日 至2027年1月29日

(注) 株式数に換算して記載しております。なお、2017年8月4日付株式分割(1株につき10株の割合)による分割および2018年3月1日付株式分割(1株につき3株の割合)による分割後の株式数に換算して記載しております。

(2) ストック・オプションの規模およびその変動状況

当連結会計年度(2020年2月期)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	第1回 新株予約権	第2回 新株予約権	第3回 新株予約権	第4回 新株予約権	第5回 新株予約権
権利確定前 (株)					
前連結会計年度末	-	-	-	-	-
付与	-	-	-	-	-
失効	-	-	-	-	-
権利確定	-	-	-	-	-
未確定残	-	-	-	-	-
権利確定後 (株)					
前連結会計年度末	11,700	18,000	196,770	48,600	19,500
権利確定	-	-	-	-	-
権利行使	-	-	79,500	14,010	2,520
失効	-	-	900	9,000	-
未行使残	11,700	18,000	116,370	25,590	16,980

(注) 2017年8月4日付株式分割(1株につき10株の割合)による分割および2018年3月1日付株式分割(1株につき3株の割合)による分割後の株式数に換算して記載しております。

単価情報

	第1回 新株予約権	第2回 新株予約権	第3回 新株予約権	第4回 新株予約権	第5回 新株予約権
権利行使価格 (円)	177	217	550	550	550
行使時平均株価 (円)	-	-	1,491	1,378	1,648
付与日における公正な評価単価 (円)	-	-	-	-	-

(注) 2017年8月4日付株式分割(1株につき10株の割合)による分割および2018年3月1日付株式分割(1株につき3株の割合)による分割を行っているため、当該株式分割による調整後の金額に換算して記載しております。

3. ストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

ストック・オプション付与日時点において、当社は株式を上場していないことから、ストック・オプションの公正な評価単価の見積方法を単位当たりの本源的価値の見積りによっております。

また、単位当たりの本源的価値の見積方法は、当社株式の評価額から権利行使価格を控除する方法で算定しております。当社株式の評価方法は、第1回新株予約権および第2回新株予約権については時価純資産価額法によっており、第3回新株予約権および第4回新株予約権ならびに第5回新株予約権については、DCF法(ディスカウント・キャッシュフロー法)によっております。

4. ストック・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

5. ストック・オプションの単位当たりの本源的価値により算定を行う場合の当連結会計年度末における本源的価値の合計額および当連結会計年度において権利行使されたストック・オプションの権利行使日における本源的価値の合計額

当連結会計年度末における本源的価値の合計額	57,140千円
当連結会計年度において権利行使された本源的価値の合計額	89,616千円

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当連結会計年度 (2020年2月29日)
繰延税金資産		
賞与引当金	16,827	12,526
返品調整引当金	3,041	11,993
未払費用	10,952	18,135
棚卸資産評価損	7,585	20,117
連結会社間内部利益消去	7,743	11,590
その他	10,834	53,203
減損損失	-	25,051
投資有価証券評価損	-	24,506
のれん	-	47,832
繰越欠損金	102,952	153,075
繰延税金資産小計	159,937	378,031
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額	-	149,660
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	-	134,503
評価性引当額	149,123	284,163
繰延税金資産合計	10,813	93,867
繰延税金負債		
全面時価評価法による評価差額	-	35,440
外国子会社の留保利益の税金負担額	8,013	7,909
為替換算調整勘定	24,209	23,506
未払事業税	1,947	-
その他有価証券評価差額金	-	93
繰延税金負債合計	34,170	66,949
繰延税金資産の純額	23,356	26,918

(注) 1. 前連結会計年度および当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当連結会計年度 (2020年2月29日)
投資その他の資産 - 繰延税金資産	8,865千円	50,204千円
固定負債 - その他	32,222	23,286

(注) 2. 評価性引当額の変動の主な内容は、税務上の繰越欠損金にかかる評価性引当額46,707千円、投資有価証券にかかる評価性引当額24,506千円、減損損失にかかる評価性引当額25,051千円等の増加によるものであります。

(注) 3. 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額
当連結会計年度(2020年2月期)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)	合計 (千円)
税務上の繰越欠損金	-	-	-	-	-	153,075	153,075
評価性引当額	-	-	-	-	-	149,660	149,660
繰延税金資産	-	-	-	-	-	3,415	3,415

1. 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。
2. 主に翌連結会計年度以降において課税所得が見込まれることなどにより、税務上の繰越欠損金の一部を回収可能と判断しております。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

前連結会計年度および当連結会計年度は、税金等調整前当期純損失を計上しているため注記を省略しております。

(表示方法の変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日。以下「税効果会計基準一部改正」という。)を当連結会計年度から適用し、税効果関係注記を変更しております。

税効果関係注記において、税効果会計基準一部改正第3項から第5項に定める「税効果会計に係る会計基準」注解(注8)(評価性引当額の合計額を除く。)および同注解(注9)に記載された内容を追加しております。ただし、当該内容のうち前連結会計年度に係る内容については、税効果会計基準一部改正第7項に定める経過的な取扱いに従って記載しておりません。

(企業結合等関係)

(取得による企業結合)

(吸収分割による事業承継)

当社は、2018年11月15日開催の取締役会決議により、株式会社ネクストが行う介護用品のインターネット販売(以下、「EC事業」)を当社の連結子会社である株式会社ネクストケア・イノベーションが吸収分割により承継する吸収分割契約を締結し、2019年1月1日付で吸収分割を実施いたしました。

1. 企業結合の概要

(1) 相手企業の名称および取得した事業の内容

相手企業の名称	株式会社ネクスト
事業の内容	介護用品のインターネット販売

(2) 企業結合を行った主な理由

当社は、介護用品・福祉用具の製造販売を主な事業としておりますが、団塊世代の高齢化にともない、高齢者のインターネットを活用した消費の拡大が見込まれております。本吸収分割によりインターネットを活用した新たな販売チャネルを構築し、事業拡大を推進するものであります。

(3) 企業結合日

2019年1月1日

(4) 企業結合の法的形式

株式会社ネクストを吸収分割会社とし、株式会社ネクストケア・イノベーション(当社の連結子会社)を吸収分割承継会社とする吸収分割

(5) 結合後企業の名称

変更ありません。

(6) 取得企業を決定するに至った主な根拠

株式会社ネクストケア・イノベーション(当社の連結子会社)が現金を対価として株式会社ネクストが行うEC事業を会社分割の方法により承継したことによるものであります。

2. 連結財務諸表に含まれる取得した事業の業績の期間

2019年1月1日から2019年12月31日まで

3. 取得した事業の取得原価および対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	178,000千円
取得原価		178,000

4. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法および償却期間

(1) 発生したのれん

86,640千円

(2) 発生原因

今後の事業展開によって期待される将来の超過収益力から発生したものであります。

(3) 償却方法および償却期間

5年間にわたる均等償却

5. 企業結合日に受け入れた資産および引き受けた負債の額ならびにその主な内訳

流動資産	- 千円
固定資産	107,327千円
資産合計	107,327千円

流動負債	- 千円
固定負債	15,967千円
負債合計	15,967千円

(株式取得による子会社化)

当社は、2019年2月18日および2019年2月28日開催の取締役会決議により、有限会社パムック、株式会社あつぷる、および株式会社シクロケアと株式譲渡契約を締結し、2019年3月1日付で全株式を取得いたしました。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称および事業の内容

被取得企業の名称	事業の内容
有限会社パムック	車いすのオーダーメイド事業、福祉用具のレンタル事業、デイサービスの運営
株式会社あつぷる	福祉用具のレンタル事業、デイサービスの運営
株式会社シクロケア	介護保険対象品目となる福祉用具および特定福祉用具の製造販売

(2) 企業結合を行った主な理由

有限会社パムックは、自立支援を目的としたデイサービス事業、ご利用者様の視点に立って福祉用具を提案する福祉用具のレンタル事業、そして、一人ひとりの体型やニーズに合わせて製作する車いすのオーダーメイド事業により、地域の介護福祉に貢献しております。当社グループは、有限会社パムックの介護福祉の現場から得られる様々なニーズ、情報により製品開発力の向上および中長期的な企業価値向上に寄与すると判断し、株式の取得を実施することいたしました。

株式会社あつぷるは、デイサービス事業および福祉用具レンタル事業を展開しております。同社のテリトリーは有限会社パムックのテリトリーに隣接しており、事業展開においてドミナントを形成し、両社の相乗効果によって効率的な経営を行うことが可能となり、当社グループの中長期的な企業価値の向上に寄与すると判断し、株式の取得を実施することいたしました。

株式会社シクロケアは、介護保険における住宅改修用品および介護保険貸与（レンタル）の対象となる手すりやスロープ、また、介護保険販売の対象品目となる特定福祉用具の入浴補助具（すのこ）等の製造・販売をおこなっております。同社の事業を吸収することにより、当社グループが取り扱う介護保険分野における製品の領域を拡大、品揃えを強化することができ、事業シナジーの創出が期待されることから、中長期的な企業価値向上に寄与するものと判断し、株式の取得を実施することいたしました。

(3) 企業結合日

2019年3月1日

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

(5) 結合後企業の名称

名称の変更はありません。

(6) 取得した議決権比率

対象3社すべて100%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによるものです。

2. 連結財務諸表に含まれる被取得企業の業績の期間

対象3社すべて2019年3月1日から2019年12月31日まで

3. 被取得企業の取得原価および対価の種類ごとの内訳

有限会社パムック

取得の対価	現金	59,000千円
取得原価		59,000

株式会社あつぷる

取得の対価	現金	0千円
取得原価		0

株式会社シクロケア

取得の対価	現金	150,000千円
取得原価		150,000

4. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法および償却期間または負ののれん発生益の金額および発生原因

(1) 発生したのれんまたは負ののれん発生益の金額

有限会社パムック	のれん	85,323千円
株式会社あつぷる	のれん	40,283千円
株式会社シクロケア	負ののれん発生益	33,179千円

(2) 発生原因

のれん	今後の事業展開によって期待される将来の超過収益力から発生したものであります。
負ののれん発生益	企業結合時の時価純資産が取得原価を上回ったため、その差額を負ののれん発生益として認識しております。

(3) 償却方法および償却期間

のれん	5年間にわたる均等償却
-----	-------------

5. 企業結合日に受け入れた資産および引き受けた負債の額ならびにその主な内訳

(1) 有限会社パムック

流動資産	231,532千円
固定資産	625,974千円
資産合計	857,506千円
流動負債	234,651千円
固定負債	649,178千円
負債合計	883,829千円

(2) 株式会社あつぷる

流動資産	20,098千円
固定資産	7,582千円
資産合計	27,681千円
流動負債	13,659千円
固定負債	54,304千円
負債合計	67,964千円

(3) 株式会社シクロケア

流動資産	108,983千円
固定資産	126,163千円
資産合計	235,146千円
流動負債	27,575千円
固定負債	24,392千円
負債合計	51,967千円

(共通支配下の取引等)

(連結子会社間の吸収合併)

当社は、2019年10月1日を効力発生日として、当社の連結子会社である株式会社幸和ライフゼーション(2019年9月27日付で、「有限会社パムック」から「株式会社幸和ライフゼーション」へ商号変更しております。)を吸収合併存続会社とし、同じく当社の連結子会社である株式会社あつぷるを吸収合併消滅会社とする吸収合併をいたしました。

1. 取引の概要

(1) 結合当事企業の名称および当該事業の内容

(吸収合併存続会社)

名称 株式会社幸和ライフゼーション
事業の内容 介護サービス事業

(吸収合併消滅会社)

名称 株式会社あつぷる
事業の内容 介護サービス事業

(2) 企業結合日

2019年10月1日

(3) 企業結合の法的形式

株式会社幸和ライフゼーションを存続会社とし、株式会社あつぷるを消滅会社とする吸収合併

(4) 結合後企業の名称

株式会社幸和ライフゼーション

(5) その他取引の概要に関する事項

両社の経営統合により経営の合理化・効率化、コストの削減および業容拡大を図るものであります。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号)および「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号)に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

(資産除去債務関係)

資産除去債務の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

賃貸不動産の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

従来、当社グループの事業は、福祉用具事業の単一セグメントとしてセグメント別の記載を省略しておりましたが、2018年11月に設立しました株式会社ネクストケア・イノベーションが2019年1月に吸収分割により介護用品のインターネット販売を事業とする「EC事業」を承継したこと、また2019年3月に有限会社パムック、株式会社あつぷる、株式会社シクロケアの全株式を取得し連結の範囲に含めたことにより、当社グループの報告セグメントを介護用品・福祉用具の製造販売を事業とする「介護用品・福祉用具製造販売事業」と福祉用具のレンタル、デイサービスおよび車いすオーダーメイドを事業とする「介護サービス事業」の2つに区分することといたしました。

なお、有限会社パムックは2019年9月27日付で株式会社幸和ライフゼーションに商号変更を行っており、さらに2019年10月1日付で株式会社幸和ライフゼーションを存続会社とし、株式会社あつぷるを消滅会社とする吸収合併を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告セグメントの利益は営業利益ベースの数値であり、セグメント間の内部売上高または振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報
前連結会計年度（自2018年3月1日 至2019年2月28日）
当社グループは福祉用具事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自2019年3月1日 至2020年2月29日）

（単位：千円）

	報告セグメント			その他（注） 1	合計	調整額（注） 3、4	連結財務諸表 計上額（注） 2
	介護用品・福祉用具製造販売事業	介護サービス事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	4,869,602	622,439	5,492,042	500,115	5,992,157	-	5,992,157
セグメント間の内部売上高又は振替高	85,269	-	85,269	-	85,269	85,269	-
計	4,954,872	622,439	5,577,311	500,115	6,077,426	85,269	5,992,157
セグメント利益又はセグメント損失（ ）	208,000	102,197	105,803	9,572	96,231	227,542	131,310
セグメント資産（注）5	5,711,076	728,452	6,439,529	278,021	6,717,551	407,160	6,310,390
その他の項目							
減価償却費	172,257	29,186	201,444	9,589	211,033	-	211,033
のれん償却額	-	18,841	18,841	17,328	36,169	-	36,169
負ののれん発生益	33,179	-	33,179	-	33,179	-	33,179
減損損失	2,160	205,810	207,970	-	207,970	-	207,970
有形固定資産及び無形固定資産の増加額（注）6	156,628	6,812	163,441	240	163,682	-	163,682

（注）1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、介護用品のインターネット販売を事業とする「EC事業」であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3. セグメント利益又はセグメント損失の調整額 227,542千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 227,165千円およびその他の調整額 377千円が含まれております。

なお、全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

4. セグメント資産の調整額 407,160千円には、投資と資本の相殺消去 50,490千円、債権債務の相殺消去 580,591千円、貸倒引当金の修正250,497千円およびたな卸資産の調整 5,850千円が含まれております。

5. 当連結会計年度において、介護用品・福祉用具製造販売事業では、M&Aにより、株式会社シクロケアを取得し、建物（49,669千円）、土地（53,700千円）等が増加しております。

また、介護サービス事業では、M&Aにより、株式会社幸和ライフゼーションを取得し、建物（221,115千円）、土地（259,400千円）等が増加しております。

なお、東莞幸和家庭日用品有限公司において、IFRS16号「リース」を適用したことにより、介護用品・福祉用具製造販売事業のセグメント資産が530,926千円増加しております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 2018年3月1日 至 2019年2月28日）

1. 製品およびサービスごとの情報

（単位：千円）

	シルバーカー	歩行車	杖	入浴補助具	OEM	その他	売上割戻金等	合計
外部顧客への売上高	1,416,851	1,335,531	405,760	204,041	609,855	681,655	127,398	4,526,297

（注）売上割戻金等は、商品ごとではなく売上高の合計を基準としているため、区分ごとに配分できない事から合計額で表示しております。

2. 地域ごとの情報

（1）売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

（2）有形固定資産

（単位：千円）

日本	中国	合計
289,598	108,279	397,878

（注）有形固定資産は所在地を基礎とし、国内と海外に分類しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の名称または氏名	売上高
パナソニックエイジフリー株式会社	628,893

（注）当社グループは、福祉用具事業の単一セグメントであるため、関連するセグメント名の記載を省略しております。

当連結会計年度（自 2019年3月1日 至 2020年2月29日）

1. 製品およびサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

（1）売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

（2）有形固定資産

（単位：千円）

日本	中国	合計
965,950	645,273	1,611,224

（注）有形固定資産は所在地を基礎とし、国内と海外に分類しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の名称または氏名	売上高	関連するセグメント名
パナソニックエイジフリー株式会社	627,728	介護用品・福祉用具製造販売事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 2018年3月1日 至 2019年2月28日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2019年3月1日 至 2020年2月29日）

（単位：千円）

	連結合計又は会社合計					
	報告セグメント			その他	全社・消去	合計
	介護用品・福祉用具製造販売事業	介護サービス事業	報告セグメント			
減損損失	2,160	205,810	207,970	-	-	207,970

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 2018年3月1日 至 2019年2月28日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2019年3月1日 至 2020年2月29日）

（単位：千円）

	連結合計又は会社合計					
	報告セグメント			その他	全社・消去	合計
	介護用品・福祉用具製造販売事業	介護サービス事業	報告セグメント			
当期償却額	-	18,841	18,841	17,328	-	36,169
当期末残高	-	-	-	69,312	-	69,312

（注）1. 「その他」の金額は、EC事業に係る金額であります。

2. 「介護サービス事業」におきましては、株式会社幸和ライフゼーションの事業計画に対する進捗状況や今後の業績見通しを踏まえて検討した結果、同社株式取得時に計上したのれんの未償却残高の全額106,765千円を減損損失として特別損失に計上しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 2018年3月1日 至 2019年2月28日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2019年3月1日 至 2020年2月29日）

「介護用品・福祉用具製造販売事業」において、連結子会社である株式会社シクロケアの株式取得による子会社化にともない、負ののれんが発生しております。当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当連結会計年度において33,179千円であります。なお、負ののれん発生益は特別利益のため、上記セグメント利益には含まれておりません。

【関連当事者情報】

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員および主要株主（個人の場合に限る）等
前連結会計年度（自 2018年3月1日 至 2019年2月28日）
該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2019年3月1日 至 2020年2月29日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（％）	関連当事者との関係	取引内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
役員	大井 実	-	-	当社取締役	0.41	-	ストック・オプションの権利行使	15,295	-	-

(注) 大井実氏は、2019年10月31日付で退任し、関連当事者に該当しなくなっております。このため、取引金額は取締役退任までの取引について記載しており、議決権等の被所有割合は当連結会計年度末の割合を記載しております。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員および主要株主（個人の場合に限る。）等
前連結会計年度（自 2018年3月1日 至 2019年2月28日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（％）	関連当事者との関係	取引内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
重要な子会社の役員が議決権の過半数を所有している会社	株式会社ネクスト（注）2	福岡県北九州市八幡西区	10,000	自動車事業および環境・省エネ事業等	なし	資金の貸付等	資金の貸付（注）3	40,000	長期貸付金	40,000
							会社分割による事業承継（注）4	-	前払金	178,000

当連結会計年度（自 2019年3月1日 至 2020年2月29日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（％）	関連当事者との関係	取引内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
重要な子会社の役員が議決権の過半数を所有している会社	株式会社ネクスト（注）2	福岡県北九州市八幡西区	10,000	自動車事業および環境・省エネ事業等	なし	資金の貸付等 商品の仕入	資金の貸付（注）3	-	長期貸付金	40,000
							会社分割による事業承継（注）4	178,000	-	-
							商品の仕入（注）5	180,599	買掛金	665

- (注) 1. 取引金額には消費税は含まれておりません。
2. 当社の連結子会社である株式会社ネクストケア・イノベーションの代表取締役渡部雅孝が議決権の過半数を所有しております。
3. 資金の貸付については、市場金利を勘案して決定しております。
4. 会社分割の対価については、第三者機関により算定した価格を参考にして、両社の協議の上決定しております。
5. 価格その他の取引条件は市場実勢を勘案して、価格交渉の上で決定しております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
1株当たり純資産額	293.44円	190.42円
1株当たり当期純損失()	87.52円	86.48円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	-円	-円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純損失の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
1株当たり当期純損失()		
親会社株主に帰属する当期純損失() (千円)	358,158	367,327
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純損失()(千円)	358,158	367,327
普通株式の期中平均株式数(株)	4,092,394	4,247,602
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	-	-

(重要な後発事象)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、世界各地で外出禁止令が発令され、国内においても緊急事態宣言が発令されるなど、国民が外出を控える状況となっております。

これらの影響により、消費等の経済活動の低迷から、当社の財政状態や経営成績に影響を及ぼす可能性があります。当該影響額については、提出日現在において合理的に算定することが困難であります。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	-	-	-	-
1年以内に返済予定の長期借入金	405,776	659,090	0.40	-
1年以内に返済予定のリース債務	33,151	100,742	4.13	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	1,838,411	2,916,463	0.38	2020年～2046年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	69,136	528,344	4.76	2020年～2026年
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	2,346,475	4,204,640		

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金およびリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	683,540	545,077	506,408	406,806
リース債務	106,409	83,486	85,964	88,103

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首および当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首および当連結会計年度末における負債および純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2)【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	1,802,036	3,429,336	4,804,118	5,992,157
税金等調整前四半期(当期)純利益又は税金等調整前四半期純損失()(千円)	179,141	216,773	127,561	356,601
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	147,467	174,377	159,239	367,327
1株当たり四半期(当期)純利益又は1株当たり四半期純損失()(円)	35.13	41.34	37.58	86.48

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失()(円)	35.13	6.35	78.05	48.62

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年2月28日)	当事業年度 (2020年2月29日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,818,006	2,034,199
受取手形	43,215	39,845
売掛金	1,505,907	1,657,801
商品	475,828	437,030
貯蔵品	24	48
前渡金	26	549
前払費用	27,787	19,754
未収入金	1,52,600	1,16,393
短期貸付金	-	1,5,000
その他	1,46,824	1,1,584
貸倒引当金	82	-
流動資産合計	2,970,137	3,212,208
固定資産		
有形固定資産		
建物	35,728	30,040
工具、器具及び備品	22,039	11,720
土地	203,030	328,288
リース資産	14,823	10,371
建設仮勘定	13,976	-
有形固定資産合計	289,598	380,419
無形固定資産		
ソフトウェア	31,382	23,955
リース資産	88,814	58,812
その他	576	576
無形固定資産合計	120,773	83,343
投資その他の資産		
投資有価証券	104,402	25,372
関係会社株式	603,341	753,341
長期貸付金	1,225,469	1,607,117
長期前払費用	3,604	106
繰延税金資産	-	27,704
その他	4,322	5,428
貸倒引当金	27	250,497
投資その他の資産合計	941,113	1,168,574
固定資産合計	1,351,485	1,632,337
資産合計	4,321,622	4,844,545

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年2月28日)	当事業年度 (2020年2月29日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	25,716	32,258
買掛金	1,366,479	1,297,372
1年内返済予定の長期借入金	405,776	590,622
リース債務	33,151	33,391
未払金	1,267,641	1,322,272
未払費用	35,768	43,841
未払法人税等	944	35,635
前受金	6,298	1,279
預り金	14,778	24,111
賞与引当金	54,957	40,596
返品調整引当金	9,932	38,266
その他	6,834	23,518
流動負債合計	1,228,280	1,483,165
固定負債		
長期借入金	1,838,411	2,499,073
リース債務	69,136	35,745
退職給付引当金	840	1,002
その他	6,039	5,650
固定負債合計	1,914,427	2,541,471
負債合計	3,142,708	4,024,637
純資産の部		
株主資本		
資本金	535,252	561,660
資本剰余金		
資本準備金	461,622	488,031
資本剰余金合計	461,622	488,031
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	182,057	229,900
利益剰余金合計	182,057	229,900
自己株式	-	95
株主資本合計	1,178,933	819,696
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	19	211
評価・換算差額等合計	19	211
純資産合計	1,178,914	819,908
負債純資産合計	4,321,622	4,844,545

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当事業年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
売上高	1 3,973,450	1 4,293,159
売上原価	1, 2 2,253,629	1, 2 2,377,863
売上総利益	1,719,821	1,915,295
返品調整引当金戻入額	5,409	9,932
返品調整引当金繰入額	9,932	38,266
差引売上総利益	1,715,299	1,886,961
販売費及び一般管理費	1, 2, 3 2,014,562	1, 2, 3 1,897,367
営業利益又は営業損失()	299,263	10,406
営業外収益		
受取利息	1 1,045	1 2,256
受取配当金	1 179,533	93
受取手数料	1,122	2,653
補助金収入	13,458	30,199
賃貸収入	2,160	2,160
受取保険金	2,502	30,000
為替差益	-	11,110
その他	5,652	1 8,281
営業外収益合計	205,474	86,755
営業外費用		
支払利息	9,341	12,279
売上割引	16,580	13,702
為替差損	1,604	-
株式交付費	759	551
貸倒引当金繰入額	27	250,468
その他	55	603
営業外費用合計	28,369	277,604
経常損失()	122,157	201,254
特別損失		
固定資産売却損	-	4 48
固定資産除却損	5 1,571	5 594
製品自主回収関連費用	62,716	-
投資有価証券評価損	-	80,034
関係会社株式評価損	-	59,000
減損損失	-	2,160
特別損失合計	64,287	141,837
税引前当期純損失()	186,445	343,092
法人税、住民税及び事業税	10,810	24,221
法人税等調整額	43,149	27,797
法人税等合計	32,339	3,575
当期純損失()	218,784	339,516

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2018年3月1日 至 2019年2月28日）

（単位：千円）

	株主資本						株主資本合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	
		資本準備金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計		
当期首残高	484,213	410,583	410,583	509,613	509,613	-	1,404,410
当期変動額							
新株の発行	51,039	51,039	51,039				102,078
剰余金の配当				108,770	108,770		108,770
当期純損失（ ）				218,784	218,784		218,784
自己株式の取得							
株主資本以外の項目の当期変動額 （純額）							
当期変動額合計	51,039	51,039	51,039	327,555	327,555		225,476
当期末残高	535,252	461,622	461,622	182,057	182,057	-	1,178,933

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	99	99	1,404,310
当期変動額			
新株の発行			102,078
剰余金の配当			108,770
当期純損失（ ）			218,784
自己株式の取得			
株主資本以外の項目の当期変動額 （純額）	80	80	80
当期変動額合計	80	80	225,396
当期末残高	19	19	1,178,914

当事業年度（自 2019年3月1日 至 2020年2月29日）

（単位：千円）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本合計
		資本準備金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計		
当期首残高	535,252	461,622	461,622	182,057	182,057	-	1,178,933
当期変動額							
新株の発行	26,408	26,408	26,408				52,816
剰余金の配当				72,441	72,441		72,441
当期純損失（ ）				339,516	339,516		339,516
自己株式の取得						95	95
株主資本以外の項目の当期変動額 （純額）							
当期変動額合計	26,408	26,408	26,408	411,958	411,958	95	359,236
当期末残高	561,660	488,031	488,031	229,900	229,900	95	819,696

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証 券評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	19	19	1,178,914
当期変動額			
新株の発行			52,816
剰余金の配当			72,441
当期純損失（ ）			339,516
自己株式の取得			95
株主資本以外の項目の当期変動額 （純額）	231	231	231
当期変動額合計	231	231	359,005
当期末残高	211	211	819,908

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準および評価方法

(1) 関係会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

(2) その他有価証券

・時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

・時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

2. デリバティブ等の評価基準および評価方法

デリバティブ

時価法を採用しております。

3. たな卸資産の評価基準および評価方法

主として移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

4. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)および2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	24年
建物附属設備	8～20年
工具、器具及び備品	2～15年

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

5. 外貨建の資産および負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

6. 重要な繰延資産の処理方法

株式交付費

発生時に全額費用処理しております。

7. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

当社は、債権の貸し倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 返品調整引当金

当社は、将来に予想される返品に備えるため、過去の返品実績率等により返品の可能性を検討し、返品損失見込額を計上しております。

(3) 賞与引当金

当社は、従業員の賞与金の支払に備えて、賞与支給見込額の当期負担額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

当社は、退職給付引当金および退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

8. 重要なヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。

なお、為替予約については、振当処理の要件を満たしている場合には振当処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段...為替予約取引

ヘッジ対象...外貨建債務および予定取引

(3) ヘッジ方針

外貨建取引に係るヘッジ取引は、デリバティブ管理規定に基づき、為替変動にともなうキャッシュ・フロー変動リスクのヘッジを目的として行っております。

(4) ヘッジの有効性評価の方法

外貨建予定取引については、当該取引の実効可能性が過去の取引実績および予算等から総合的に判断して極めて高いことを確認することで、有効性の評価としております。

9. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

(貸借対照表)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当事業年度の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

(損益計算書)

前事業年度において、「営業外収益」の「その他」に含めていた「補助金収入」および「受取保険金」は、金額的重要性が増したため、当事業年度より独立掲記することとしました。この表示方法を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた21,614千円は、「補助金収入」13,458千円、「受取保険金」2,502千円、「その他」5,652千円として組替えております。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症の拡大にともない、現状では正確な数値を予測するのは困難な状況が続いておりますが、翌事業年度については、売上高の減少等の影響が上期まで見込まれるものの、下期以降は徐々に回復し、推移していくものと見込んでおります。

当社は、有形固定資産の減損評価、繰延税金資産の回収可能性に関する評価等は、財務諸表作成時点で入手可能な情報・事実に基づき、合理的な金額の見積もりを行っております。ただし、将来の不確実性により、最善の見積もりを行った結果として見積もられた金額と事後的な結果との間に乖離が生じる可能性があります。

(貸借対照表関係)

1 関係会社項目

関係会社に対する金銭債権及び金銭債務(区分表示されたものを除く)

	前事業年度 (2019年2月28日)	当事業年度 (2020年2月29日)
短期金銭債権	18,653千円	32,373千円
長期金銭債権	178,000	555,510
短期金銭債務	308,810	218,586

2 債務保証

関係会社の金融機関からの借入債務に対し、保証を行っております。

	前事業年度 (2019年2月28日)	当事業年度 (2020年2月29日)
株式会社幸和ライフゼーション(借入債務)	-	429,505千円

3 コミットメントライン契約

当社は、運転資金の機動的かつ安定的な調達を可能にするため、2016年2月29日付にて取引銀行2行と契約開始日を2016年3月3日とするコミットメントライン契約を締結しておりましたが、債務制限条項へ抵触により2020年2月28日を以て契約を終了いたしました。

	前事業年度 (2019年2月28日)	当事業年度 (2020年2月29日)
コミットメントラインの総額	500,000千円	-千円
借入実行残高	-	-
差引額	500,000	

4 財務制限条項

当社のコミットメントライン契約には、純資産と利益について以下の条件の財務制限条項が付されております。

単体の貸借対照表における純資産の部の金額を、当該決算期の直前の決算期の末日または2015年2月に終了する決算期の末日における単体の貸借対照表における純資産の部の金額のいずれか大きい方の75%以上にそれぞれ維持すること。

本契約締結日またはそれ以降に終了する各年度の決算期に係る単体の損益計算書上の経常損益に関して、それぞれ2期連続して経常損失を計上しないこと。

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当事業年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
営業取引による取引高		
売上高	3,097千円	84,735千円
仕入高	1,372,341	1,223,775
販売費及び一般管理費	5,262	6,584
営業取引以外の取引による取引高	180,249	7,530

2 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当事業年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
販売費及び一般管理費への振替高	19,874千円	17,435千円
特別損失への振替高	38,026	-

3 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度23%、当事業年度24%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度77%、当事業年度76%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目および金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当事業年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
給与手当	516,684千円	512,343千円
賞与引当金繰入額	54,957	40,596
退職給付費用	16,668	44,833
運賃	199,703	221,487
物流委託費	257,363	255,689
減価償却費	66,544	66,233
貸倒引当金繰入額	11	80

4 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当事業年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
建物	- 千円	48千円
計	-	48

5 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当事業年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
建物	0千円	- 千円
工具、器具及び備品	331	-
ソフトウェア	1,240	594
計	1,571	594

(有価証券関係)

子会社株式(前事業年度の貸借対照表計上額603,341千円、当事業年度の貸借対照表計上額753,341千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。
なお、当事業年度において、関係会社株式について、59,000千円の減損処理を行っております。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2019年2月28日)	当事業年度 (2020年2月29日)
繰延税金資産		
貸倒引当金	33千円	76,702千円
賞与引当金	16,827	12,430
返品調整引当金	3,041	11,717
退職給付引当金	257	9,121
未払費用	10,952	13,424
棚卸資産評価損	6,463	7,232
資産除去債務	1,982	2,086
繰越欠損金	100,968	79,703
未払事業税	-	4,373
関係会社株式評価損	-	18,065
投資有価証券評価損	-	24,506
その他	8,818	20,134
繰延税金資産小計	149,345	279,497
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額	-	79,703
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	-	171,996
評価性引当額	147,397	251,700
繰延税金資産合計	1,947	27,797
繰延税金負債		
未収事業税	1,947	-
その他有価証券評価差額金	-	93
繰延税金負債合計	1,947	93
繰延税金資産の純額	-	27,704

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

前事業年度及び当事業年度については、税引前当期純損失を計上しているため記載を省略しております。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

連結財務諸表「注記事項(企業結合等関係)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

共通支配下の取引等

連結財務諸表「注記事項(企業結合等関係)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(重要な後発事象)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、世界各地で外出禁止令が発令され、国内においても緊急事態宣言が発令されるなど、国民が外出を控える状況となっております。

これらの影響により、消費等の経済活動の低迷から、当社の財政状態や経営成績に影響を及ぼす可能性があります。当該影響額については、提出日現在において合理的に算定することが困難であります。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

区分	資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期償却額 (千円)	当期末残高 (千円)	減価償却累計 額(千円)
有形固定資産	建物	35,728	-	58	5,629	30,040	136,196
	工具、器具及び備品	22,039	3,806	-	14,126	11,720	238,857
	土地	203,030	125,258	-	-	328,288	-
	リース資産	14,823	-	-	4,452	10,371	11,892
	建設仮勘定	13,976	-	13,976	-	-	-
	計	289,598	129,064	14,034	24,208	380,419	386,947
無形固定資産	ソフトウェア	31,382	4,399	2,754 (2,160)	9,072	23,955	-
	リース資産	88,814	-	-	30,002	58,812	-
	その他	576	-	-	-	576	-
	計	120,773	4,399	2,754 (2,160)	39,074	83,343	-

(注) 1. 建設仮勘定の当期減少額は、本社隣接地取得に係る手付金を土地に振替えたものであります。

2. 土地の当期増加額は、将来の事業規模拡大に備えて本社隣接地を取得したものであります。

3. 「当期減少額」欄の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	109	250,497	109	250,497
返品調整引当金	9,932	38,266	9,932	38,266
賞与引当金	54,957	40,596	54,957	40,596

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3ヶ月以内
基準日	毎事業年度末日
剰余金の配当の基準日	毎年8月末日 毎年2月末日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
取次所	-
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行う。 ただし、やむを得ない事由により電子公告によることができない場合には、 日本経済新聞に掲載する方法により行う。 公告掲載URL https://kowa-seisakusho.co.jp/
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使する事ができない旨、定款に定めております。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項に掲げる権利
- (3) 募集株式または募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社の金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等は、株式会社秀一であります。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1)有価証券報告書およびその添付書類ならびに確認書

事業年度（第32期）（自 2018年3月1日 至 2019年2月28日）2019年5月28日近畿財務局長に提出

(2)内部統制報告書およびその添付書類

2019年5月28日近畿財務局長に提出

(3)四半期報告書および確認書

（第33期第1四半期）（自 2019年3月1日 至 2019年5月31日）2019年7月12日近畿財務局長に提出

（第33期第2四半期）（自 2019年6月1日 至 2019年8月31日）2019年10月15日近畿財務局長に提出

（第33期第3四半期）（自 2019年9月1日 至 2019年11月30日）2020年1月14日近畿財務局長に提出

(4)臨時報告書

2019年5月29日近畿財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使結果）に基づく臨時報告書であります。

2020年1月10日近畿財務局長に提出

金融商品取引法第24条の5第4項ならびに企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号および第19号（当社および当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象の発生）に基づく臨時報告書であります。

2020年5月27日近畿財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使結果）に基づく臨時報告書であります。

2020年6月3日近畿財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号（代表取締役の異動）に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

2020年6月30日

株式会社幸和製作所

取締役会 御中

E Y 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石田 博信 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 神前 泰洋 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社幸和製作所の2019年3月1日から2020年2月29日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社幸和製作所及び連結子会社の2020年2月29日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2020年6月30日

株式会社幸和製作所

取締役会 御中

E Y 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石田 博信 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 神前 泰洋 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社幸和製作所の2019年3月1日から2020年2月29日までの第33期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社幸和製作所の2020年2月29日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. X B R Lデータは監査の対象には含まれていません。